

山部会における活動成果資料

目次

1. 資料1 2014年度山村再生担い手づくり事例集の作成について..... 1
2. 資料2 「森づくりガイドライン」平成26年度活動のまとめに向けて（メモ）.. 15
3. 木づかいガイドライン作成資料について..... 25
4. 山村ミーティングに関連したイベント「流域カフェ」の案内紙..... 59

2014年度 山村再生担い手づくり事例集の作成について

14. 12. 19 豊田市矢作川研究所 洲崎燈子

【2014年度の目標】

年度内に21の活動団体への聞き取りとレポート作成を行う。

【スケジュール】

- 1) 取材先の確定（～8月末）
- 2) 取材者の募集、確定（～9月末）
- 3) 取材者と取材先のマッチング（～10月上旬）
- 4) 取材（11～12月）
事前検討会 10月31日（金）19：00～ 於・豊田市職員会館3階第1部室
中間報告会 12月16日（火）19：00～ 於・豊田市職員会館3階第1部室
- 5) レポートの作成（～12月末日）
取材先によるレポート確認後、提出（～2015年1月25日）
振り返りの会 2月
交通費等の請求、編集会議、事例集の完成（～2015年3月末）

*交通費等の計算・支払事務は豊田市の株式会社M-easy 戸田友介代表が担当

【12/16 中間報告会の内容】

・これまでに21団体中18団体の取材が完了している。9団体分の提出レポート（書きかけ含む）の読み合わせを実施した。

・アンティマキ

代表者が京都から稲武に行きたいきさつを知りたい。何かを趣味でやることと、その講座を開くことの間にはハードルがある。どうしてできたのか。仲間がいたのか（唐澤）。よそものがいなかに住む時の心得についての返答がいい。うまくやっているのはバランス感覚がある人。いなかに移り住んだ人同士の交流は複雑に絡み合っている。どんなパンを作っているか、どんな植物を草木染めに使っているか知りたい。あと、稲武のどこがよかったのか知りたい（近藤）

・てくてく農園

農産物のおすそわけスタイルは珍しい（洲崎）。ふつうは逆。基本に自給したいという思いがある（森本）。都会では食べていけないスタイル。岐阜で聞き取りをした時、「自立しているのは自分たち。都会には余ったものを提供する」という言葉を聞いた。プライドを感じた。「みんなで子育て」というのは？（近藤）。出産で家を離れるが、生き物の面倒を見てくれる人がいるということらしい。でも大変だと思う（森本）。儲けたいと思わないことがすごい（蜂須賀）。鶏の数は？（唐澤）100羽（森本）

・新盛里山耕流塾

団体の規模が知りたい（森本）。30～50人で、コアメンバーは5～6人（蜂須賀）。財源は？（唐澤）

会費プラス市の補助金（蜂須賀）。講座、受講生、参加希望者の数とその変化が知りたい（長谷川）。講座は増えている（蜂須賀）。ある年の受講者が翌年には教える側に回ることや、この取組で耕作放棄地が減ったことにも言及してほしい（洲崎）。耕作放棄地率は80→30%に激減した。受講者の中からIターンが出てきて4組の家族が入り、地域の子どもが増えた。代表の鈴木さんが家などを世話した。これらのことも書く（蜂須賀）

・近藤しいたけ園

原木しいたけの栽培だけでなく、ほだ木となる若い木を得るための林づくりもしていることも書いてほしい（洲崎）。ほだ木は自分の所のものが3割くらいで、あとは県内産のものでまかなっている（蜂須賀）。森の管理や栽培場所について知りたい。あと代表者の方にはおいしい食べ方も伝えてほしい（近藤）

・こいけやクリエイト

「耕Life」は完成度が高い。設置場所が多い。流域の人に広く見てほしい。取材に当たった高橋さんは海部会なので、部会間の交流ができてよかった（長谷川）。人件費が持ち出しであることが課題ではないとしているのがすごい（蜂須賀）。デザイン会社がフリーペーパーを出す場合普通スポンサーがいるのだが、自前というところがすごい。最近フリーマガジンのコンテストで賞を取った（近藤）。「耕Life」のデザインはとても洗練されている。紙面作りのこだわりがあれば知りたい（洲崎）

・アグロ・プエルタ

活動自体の形は？（唐澤）。農業サークルで、主に町の若い人に農業に親んでもらうことをめざし、まちなかで農業やイベントをしている。メンバーは別にそれぞれ仕事を持っている。そうしたことも書いてほしい。ちなみに団体名は農への扉を意味するスペイン語の造語で、自分がつけた（洲崎）

・じさんじょの会

萱葺屋敷という拠点を失い、今後どうするのか（蜂須賀）。皆、頭を抱えている。廃校になった小学校を使って「千万町楽校」を始めたが、公益性が高く活動が自由にできない（唐澤）。現在の活動についても書いてほしい（洲崎）。廃校を活用している足助里山ユースホステルの事例もある（蜂須賀）。結局お金が問題。イベントのリピーターは多く、移り住みたいという話も出たが、空き家が提供できずマッチングがうまくいかなかった。取材先に原稿を見てもらったら、少子高齢化は全国的な問題なので、ここは日本の最先端と話されていて、前向きな姿勢だと感じた（唐澤）

・額田林業クラブ

全体的に長いので、それぞれのトピックの特徴を紹介する一言があるといい（長谷川）。熱気の感じられる力作のレポートだが、書式や文体など体裁を整えて。また、取材先と取材者の言葉を分けて（洲崎）

・宮ザキ園

・額田がお茶の栽培に適した土地であるということをはじめて知った。土地や気象、消費者の好みにあったお茶づくりや新しい取組を模索していることがよく分かるレポートになっている。地域活

性化のためのNPOを立ち上げているところもすごい(洲崎)

2014年度「山村再生担い手づくり事例集」取材先×取材者

取材先	取材者
木の駅ねばりん、菊の会、竹内牧場	* 沖章枝、松井賢子、浅田益章
グローバルハム、矢作川森林塾、矢作川水族館	* 山本薫久、國村恵子、田中五月
三宅林業、東幡豆漁協、佐久島もんぺまるけ	* 丹羽健司、洲崎燈子
アンティマキ、てくてく農園、あさひ若者会	* 蔵治光一郎、大島光利、森本徳恵
足助里山ユースホテル、新盛里山耕流塾、近藤しいたけ園	* 浜口美穂、蜂須賀功
こいけやクリエイト、アグロプエルタ、とよたプレーパークの会	* 近藤朗、高橋伸夫、真柄明洋
じさんじょの会、額田林業クラブ、宮ザキ園	* 今村豊、唐澤晋平、唐澤萌

*はチームリーダー

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

DEPARTMENT OF CHEMISTRY

PH.D. THESIS

BY

DR. [Name]

IN

THE

PHYSICAL SCIENCES

てくてく農園

調査団体名	: てくてく農園	団体代表者名	: 横江 克也
設立年	: 2011年	対応してくれた人の名前	: 横江 克也・横江 晴菜
団体URL	: http://www.hm.aitai.ne.jp/~yokoe/	調査員	: 蔵治光一郎・大島 光利・森本 徳恵
活動拠点	: 豊田市榊野町池田26-4	レポート作成者	: 蔵治光一郎
取材日	: 2014年12月13日		

活動内容

農地を借り、野菜をつくる。鶏を飼い、卵を産んでもらう。不定期にジャムをつくる。これらを自家消費し、余剰を知り合いに「おすそわけ」する。おすそわけの方法は、決まったお客さんへの宅配のほか、インターネットでの購入申し込みも受け付けている。宅配は豊田市、瀬戸市内は自分で配達し、それ以外は宅配便で。名古屋や東京にもお客さんがいる。決まったお客さんは20~30人ほど。生産量としてはこれが限界。収入としては少し足りないが、生活はできている。

キャッチフレーズ

おすそわけを食卓へ

会のモットー(何を大切にしているか)

生産、販売をするのではなく、あくまで、自分たちの暮らしの余剰分を、自分たちの暮らしを応援してくれる人に「おすそわけ」する。市場に出して、知らない人に売るのはすごく気がつかうこと。店頭に並べるのは大変。規格品は作りたくないし、作ることができない。

設立から現在に至るまで変化したこと

基本は変わっていない。お客さんが20~30人になるまで、最初は口コミ、知り合いに分けていた。イベントに出展して宅配を募集し、お客さんが増えていった。野菜を先に始めたが、野菜は自分で作っている人も多い。卵は自分で作っている人は少なく、こだわりの卵を食べたいという人も多かったようで、増えていった。最近では、お客さんの顔が浮かぶようになり、こちらの思いだけではなく、お客さんのことを考えながら作るようになった。

連携している団体・専門家・自治体など

農協、スーパー、市の販売所とは連携していない。行政からは青年就農の補助金、耕作放棄地を再生する補助金、電柵の補助金などをいただいた。

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

自分たちの生活で精いっぱいだが、消防団に入ったので、同じ世代で外から入ってきた人たちや、地元の若者とは知り合いになった。地域のお祭りに参加し、太鼓を習い、門松を作るなど、もともと好きだったので苦にならず楽しめた。草刈をするとありがたがられた。結果として、ほとんどの日曜日に予定が入っている。

現在直面している課題

提供できる量を増やしたいが、一人でやれることには限りがある。卵は好評だが、3~5月が旬で、1日90個ほど産む。その時はおすそ分けできる人が増えるが、それ以外の季節では1日20個ほどになり、欲しいという人に分けてあげられない。

今後やってみたいこと

研修生の受け入れ。自分たちのような暮らしをしたい人を受け入れたい。
ヤギを飼ってみたい。やってみたことがあるが、草の好き嫌いがあってきれいにはならなかった。
知り合いの農家さんとお互いに手伝い合いたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

研修生が1年限りで住める場所(ゲストハウスのようなもの)があるとよい。研修生に給料は払えないので、行政の事業で給料を払ってくれる制度があるといい。そのような制度はすでにあり、14万とか20万とかいった給料が払われるようだが、払い過ぎではないか、感覚がおかしくなってしまうのではないかと思う。

チームオリジナルの質問

<質問内容> 地域に、どういう受入体制があれば、外からの人が、もっと入りやすいと思いますか。

<答え> 四国の研修センターにいて、暮らす場所を探していたとき、豊田市に空き家バンク制度があったのがとてもよかった。売り家でなく、借りられること、行政が間に入って、採算度外視であること(不動産業者との違い)、1日に何軒も見て回れたこと。豊田の中でも旭の物件が多かったので活発な地域だと思い、旭を選んだ。農業については自分で農地を探した。技術は研修で学んでいたの、行政や農協の仲介はない方がむしろよかったが、ゼロから始める人に対しては研修先、面倒を見てくれる人がいた方が入りやすいだろう。

チームオリジナルの質問

<質問内容> お子さんが生まれた後の生活は。

<答え> 周りの人たちが「みんなで子育てすればいい」と言ってくれるので、安心している。母乳、布おむつで乗り切るつもり。小児科の病院は、大きなところは足助にあるが、近くにないか探している。子供が小学生になったときに地域の小学校(敷島小)がまだあるかどうか心配。農作業のマンパワーは、子育ての分、減ってしまうことになるので、お手伝いの方がいてくれれば助かる。子供が生まれることをきっかけに、やり方を変えた方がいいかもしれないと考え中。

写真



ご自宅での取材の様子



てくてくたまごはこの箱に入れて提供されます。中には「てくてく卵のひみつ」として①国産飼料100%②平飼い飼育③抗生物質不使用についての説明が書かれています。さらに「豆知識」として、「黄身の色は食べているものの色」として、てくてく卵の鶏のごはんはお米が中心なので、黄身が薄い黄色(とうもろこしやパプリカなど赤や黄色の強いものを食べると黄身がオレンジ色になる)で、昔庭先で飼っていた頃の卵はこんな色だったかもしれません、と書かれています。

じさんじよの会

調査団体名 : じさんじよの会

団体代表者名 : 荻野昌彦

設立年 : 平成12年

対応してくれた人の名前 : 荻野昌彦

団体URL :

活動拠点 : 岡崎市 千万町 木下

調査員 : 唐澤晋平 唐澤萌

取材日 : 2014年11月15日

レポート作成者 : 唐澤萌

活動内容

地域に残っていた茅葺屋敷を整備しなおし主な拠点として活動。田植え、稲刈り、餅つきなど各種イベントの主催。イベントには名古屋、豊橋などから参加する人も多く、街の住人と地域住人の間に交流がうまれた。参加者には村民制度に加わってもらい、会費を徴収する代わりに年間のイベントに自由に参加できるようにしてリピーターを獲得。茅葺屋敷では地域の女性たちによる物販もあり、こんにゃく、五平餅などがよく売れた。それらは少なからず女性たちの現金収入となり、また、家に閉じこもりがちなお年寄りや女性が集まる良い機会になっていた。屋敷は宿泊施設としても開放していて、地域外の多くの団体が利用していた。その中の一つ、happypunchは今でも地域の畑を借りて週末農業をしており、他にもお祭や盆踊り大会などにも積極的に参加、地域のメンバーとして受け入れられている。

キャッチフレーズ

つくりつづける、ふるさとづくり

会のモットー(何を大切にしているか)

和気あいあい 明るく 楽しく

設立から現在に至るまで変化したこと

2000年、千万町小学校廃校の危機感から、移住者人口の拡大を目的として茅葺屋敷での活動を始めた。2006年、岡崎市に編入。2014年、地主の意向で屋敷を返還することとなり活動の拠点を失う。また同時に、茅葺屋敷への来客数も頭打ちになっていたこと、そして小学校も廃校となったことにより、今、会の活動の転換期をむかえている。

連携している団体・専門家・自治体など

ふるさとづくり委員会、happypunch(農業サークル)、岡崎市、

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

活動内容に同じ

現在直面している課題

茅葺屋敷にかわる新たな活動拠点を作ること。(廃校になった小学校を利用する案も出ているが、市の施設なので活動に制約がかかってしまう。)メンバーの世代交代の時期をむかえていること。

茅葺屋敷では不十分だった、移住者人口を増やすための対策の強化。

地域が活性化しているとはどんな姿なのか。「活性化」そのものの共通認識の模索が、今一度必要。

今後やってみたいこと

茅葺屋敷での活動では移住希望者を獲得するまでは至ったが、その後様々な問題が表面化した。改めてマッチングの難しさに気付かされた。今後は新たな拠点で地場の食材を売ったり、イベントを開催することで地域のPR活動をすると同時に、移住希望者リストの作成と、空き家情報リストの作成し、その両者のマッチングを、より積極的にアプローチしていきたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

岡崎市の企画課 商工会 マスコミ 政治家

チームオリジナルの質問

<質問内容>じさんじよの会の名前の由来

<答え>

じさんじよとは、絶滅危惧種であるヨシノボリの呼び名。集落を流れる川にたくさん生息し、極ありふれた生き物だったが、昭和40年代から環境の変化や川の汚染により30年近くにわたって全く姿を見なくなっていた。しかし近年また目撃されるようになった。このじさんじよの復活のように、地域を再び活性化させたいという思いが会の名前に込められている。また、語感も「地産」や「自然薯」などに通じて面白い。

チームオリジナルの質問

<質問内容>じさんじよの会を運営するにあたって難しかったこと

<答え>

平日、周辺の町へ働きに出ている住民も多い中、土日に集中して活動せざるをえないため、それを負担に感じる住民も一部いた。また、茅葺屋敷の運営を維持していく上でどうしても仕事を当番制にすることもあり、有志で始めた活動がいつのまにか義務化してしまい、報酬が出ないことへの不満が出たこともあった。

目に見える成果がすぐに出る活動ではないので周囲への理解が得にくいと同時に、自分たちのモチベーションを保つことも時に大変だった。

その他、伝えたいこと

少子化、高齢化、過疎化、地域の抱える問題は山積しているが、どれもいずれは日本が全国的に抱える問題ばかり。その先陣を切っている、先駆者であることを楽しみたい。

写真

宮ザキ園

調査団体名 : 宮ザキ園
 設立年 : 1820年頃
 団体URL : <http://www.miyazakien.com/>
 活動拠点 : 愛知県岡崎石原町
 取材日 : 平成26年11月17日

団体代表者名 : 梅村篤志
 対応してくれた人の名前 : 梅村篤志
 調査員 : 今村豊、唐澤晋平
 レポート作成者 : 唐澤晋平

活動内容

お茶の栽培(3ha)と、自社工場での加工、梱包、販売までを一貫して行っている。年間の生産量(製品の状態)は年にもよるが1600kg~2000kgくらい。地域に茶の生産者は50人くらいいて、委託加工や買取加工をしている。普段は家族5人で経営しているが、5月の連休明けくらいから夏までが茶の収穫期で、鮮度を失わないうちに一気に加工までするため寝る暇もないほど忙しい。1日1000kgの茶葉を順次加工し、製品としては200kgのものが出来る。その時期だけは地域の方にも手伝ってもらい、10人~15人くらいで作業している。お茶は全て有機無農薬栽培で、15年ほど前に県内で初めて有機のJAS認定を受けた。以前は農協に卸していたが、今は自社で産直や百貨店などに直接営業している。お茶にこだわる方が直接店に買いに来てくれる場合もある。

キャッチフレーズ

- ・自然のままに
- ・People make a juice, God make the tea 人々はジュースを作り、神がお茶を作る
工業製品とは違うので、同じものは作れない。一煎一煎の出会いを楽しんで欲しいという意味。

会のモットー(何を大切にしているか)

出来るだけ人の手をかけず、自然のままに仕立てていく。
 お茶は収穫したものがそのまま加工されて口に入るので、農薬や化学肥料は使いたくない。肥料も最低限のものしか与えないようにしている。

設立から現在に至るまで変化したこと

おおよそ190年前に創業し、現在6代目。この地域は寒暖の差が激しく霧が良く出る自然環境でお茶の栽培に適しており、夏場は茶業、冬場は林業というスタイルが地域の生業となっていた。しかし昭和30年代に木材価格が下落し、林業が衰退したことでこの形態が崩れ、街に勤める人が増えて茶業も衰退していった。お茶の値段は下げ止まりの状態だが、ゆるやかに需要と供給が減ってきている。

連携している団体・専門家・自治体など

あいち三河農協、宮崎茶業組合、東海農政局、市役所、商工会など。
 6次産業化に取り組んでいるということで、行政からイベント出展などにお声掛けがかかることがある。

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

地域に若い人が戻ってくることができるように、お茶という地域資源を活かして雇用を創っていくことを目指している。以前勤めていた茶業試験場の上司と紅茶の研究をしており、当時は珍しかった国産紅茶と一緒に作り、宮ザキ園のオリジナル商品として「三河わ紅茶」を開発した。当初はインドやスリランカから講師を招き入れダージリンやウバのような高級紅茶を国産で作れないかと思って試行錯誤したが残念ながらダージリンやウバはつけれない。しかし日本には四季がある。気候や風土などの条件も違う中で同じものを目指してもダージリンは作れないのだ。環境にあった収穫期や茶葉の発酵時間を調整し、日本の環境に合ったものにしようという方向性をシフトして、半発酵で日本人の口に合うような柔らかい味に仕上げた。

現在直面している課題

生産力不足。人手が足りない。収穫期に手伝いに来てくれるのも高齢者のみで、勤めている若い人はその時期だけ来てもらうということが出来ない。今年から青年就農の研修機関として認定を受け、研修生を受け入れると人件費の補助金が出るようになったので、担い手育成をしていきたい。

今後やってみたいこと

12月には紅茶の製造機械が納入される。地域の方には無料で貸し出して、オリジナルの紅茶を作り、訪れる人に地域を上げて紅茶でおもてなしをするという「紅茶街道」にしていきたい。

また、茶の実を絞った油の商品開発を計画している。茶の実油は食用や美容用などで高級油として販売されている。寒い時期に葉を摘む「秋冬番茶」というものがあり、これも商品にしてみたい。冬季の仕事になればと思う。さらにお茶の文化をアメリカやヨーロッパなど、海外に発信していくこともやっていきたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

県や市、農協、農政局と連携しながら販路開拓を進めていく必要がある。

チームオリジナルの質問

<質問内容>

梅村さんは現在35歳とのことであまり同世代が地域にいないと思うが、後を継いで地域に残ることに抵抗はなかった？

<答え>

同級生は12人いたが、今地元に残っているのは自分だけで寂しく思う。農業高校を出て、静岡で2年間茶業試験場に勤めて、そのまま後を継いだが、お茶を継ぐことが当然だと思っていた。これまで続けてきたものを守らなくてはという使命感をもっている。

その他、伝えたいこと

2013年5月にNPO法人インディアンサマーを設立し、現在理事長を務めている。もともと額田のくらがり溪谷で音楽イベントを主宰していたNukata Sound Projectのメンバーが中心になって設立し、現在の会員は20名程度。

活動としては、サイクリングの楽しさを発信し観光地の活性化につなげる取り組みや、障がい者のために脳の活性化を促す音楽トランポリン療法イベントの開催、上記した三河紅茶街道の取り組みなど、地域活性化に想いのある有志が様々なプロジェクトを展開している。

団体名である「インディアンサマー」は、日本語で小春日和。冬に時々温かい日があることをアメリカでそのように呼ぶことにちなんでいて、地域経済を暖めていきたいという思いを込めている。

写真



宮ザキ園外観



商品のラインナップ。贈答用のパッケージもある。



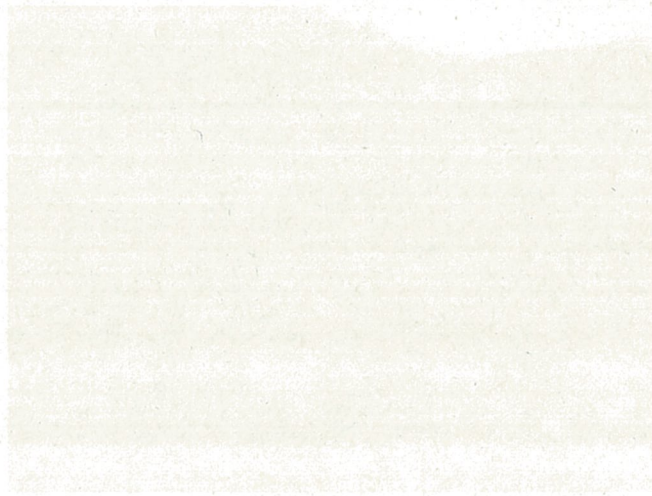
茶畑の様子と梅村さん(右側)



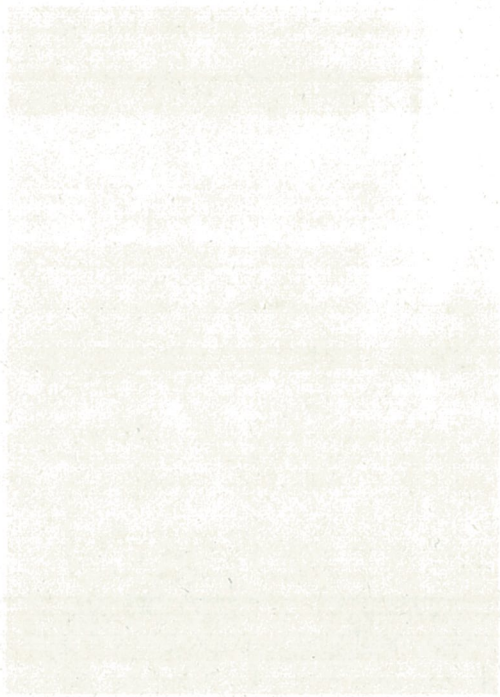
わ紅茶のポスター。
モデルは梅村さんの奥さん。



...あるアークの風景解...



...あるアークの風景解...



...あるアークの風景解...



...あるアークの風景解...

2014. 12. 19

「森づくりガイドライン」平成26年度活動のまとめに向けて（メモ）

担当 蔵治光一郎

1. 平成26年度 活動方針

- 流域圏の森づくりのカタログを作成し、森林所有者や行政、森林組合等の情報源として活用してもらうと同時に、森づくりにおける現状と課題、その解決手法に関して、川や海のメンバーへの説明資料とする。
- 今後、矢作川流域圏の川や海に配慮した木材生産をするモデル林、スギ・ヒノキ人工林を針広混交林や広葉樹林へ転換していくモデル林について、流域の4地区にそれぞれ設定していくことを検討する。

2. 「矢作川流域の森と樹木」の作成と、掲載する情報

流域圏の森林の地図（平成25年度作成済み）、統計的情報（森林面積、人工林面積、天然林等面積＝洲崎さん作成済み、過去6年間の間伐の実績＝蔵治作成済み）、各市町村の森林づくりの行政目標（岡崎市、豊田市、恵那市＝蔵治整理済み）、各地区でアピールしたい特色のある「流域圏の森づくり」の事例（収集中）、特徴的な「森と樹木」をリストアップし、「矢作川流域の森と樹木」と題する資料を作成したい。流域圏全体の地図上に位置情報を示し、川部会、海部会、流域圏の住民が一目見て、矢作川流域圏の森と樹木の全体像が理解でき、訪問もできるコンパクトな資料。

A3、1枚、表裏、PDFで作成し、プリンターで印刷して配布する。

3. 特徴的な「森と樹木」

文化財（天然記念物）リストから抽出

- アライダシ自然観察教育林 面積10ha、国有林、針広混交林、天然林

4. 各地区でアピールしたい特色のある「流域圏の森づくり」の事例

4-1 岡崎市

- 宮崎財産区有林 ●長坂100年長伐期林 ●ミツマタ長伐期林： 面積0.15ha、1927年植栽、スギ

4-2. 豊田市

4-3. 恵那市

4-4. 根羽村

- 明治用水土地改良区の森： 面積427.33ha、明治用水土地改良区所有、水源涵養保安林、スギ・ヒノキ・カラマツ人工林
- 「ふるさとの森」分収育林： 面積10ha、村有林、ヒノキ（一部スギ、マツ）、2017年に皆伐予定
- 矢作川水源の森（安城市との分収育林）： 面積48.21ha、1933年植栽、ヒノキ、サワラ等、2022年まで禁伐
- 低コスト造林モデル林： 岩名沢村有林、1964年植栽、2013年に10,15,20,25mの帯状伐採

「木と人」をテーマにした、環境と生活の共生を促す取り組み

「木と人」をテーマにした、環境と生活の共生を促す取り組み。この取り組みは、地域の活性化と環境の保全を同時に実現することを目的として行われています。具体的には、地域の若年層の増加と、環境意識の高まりを促すための様々な施策が実施されています。

この取り組みは、地域の活性化と環境の保全を同時に実現することを目的として行われています。具体的には、地域の若年層の増加と、環境意識の高まりを促すための様々な施策が実施されています。また、地域の若年層の増加と、環境意識の高まりを促すための様々な施策が実施されています。

この取り組みは、地域の活性化と環境の保全を同時に実現することを目的として行われています。具体的には、地域の若年層の増加と、環境意識の高まりを促すための様々な施策が実施されています。

- 10月1日、10月2日、10月3日、10月4日、10月5日、10月6日、10月7日、10月8日、10月9日、10月10日、10月11日、10月12日、10月13日、10月14日、10月15日、10月16日、10月17日、10月18日、10月19日、10月20日、10月21日、10月22日、10月23日、10月24日、10月25日、10月26日、10月27日、10月28日、10月29日、10月30日、10月31日
- 10月1日、10月2日、10月3日、10月4日、10月5日、10月6日、10月7日、10月8日、10月9日、10月10日、10月11日、10月12日、10月13日、10月14日、10月15日、10月16日、10月17日、10月18日、10月19日、10月20日、10月21日、10月22日、10月23日、10月24日、10月25日、10月26日、10月27日、10月28日、10月29日、10月30日、10月31日
- 10月1日、10月2日、10月3日、10月4日、10月5日、10月6日、10月7日、10月8日、10月9日、10月10日、10月11日、10月12日、10月13日、10月14日、10月15日、10月16日、10月17日、10月18日、10月19日、10月20日、10月21日、10月22日、10月23日、10月24日、10月25日、10月26日、10月27日、10月28日、10月29日、10月30日、10月31日

矢作川流域の樹木 (天然記念物指定を受けているもの)

蔵治光一郎

【平谷村】 1 件

村	トチノキ	1 本	下伊那郡平谷村諏訪社前	諏訪神社
---	------	-----	-------------	------

【根羽村】 8 件

国	月瀬の大スギ	1 本	下伊那郡根羽村月瀬	根羽村
---	--------	-----	-----------	-----

樹高 40 メートル、幹廻り約 14 メートルに達し、日本第六位、長野県第一位の巨木である。樹齢は文部省調査による約一八〇〇年を採用している。

昔から虫歯に病む者が祈願すると靈験が著しく、また大事変がおこるときには前兆として大枝が折れると語り継がれている。旧月瀬村の産宮のご神木として古来から尊崇され、地区民の手で保護されて来た。

弘化元年（一八四四）の江戸城本丸消失の復興用材として、また、明治四一年（一九〇八）国の施策による村内神社統合の折り、大杉売却の決議がなされたが、月瀬区民六十戸の総結集により、当時の大金八〇〇円を無尽講を作り十数年にわたり積立てることによって難を逃れ、保存され現存に至っているのである。

平成二年以降、「大スギ公園」作りが、特定地域林業振興総対策事業として導入された。「観光に訪れる皆さんにゆっくりくつろいでほしい」との念願から、大スギ周辺にテニスコート・ゲートボール場・トイレ棟・あずま屋などを設置し整備を進めている。

一方、老人クラブ員の草とり作業、全戸交代によるトイレ清掃などの奉仕活動が毎週行われている。

村	砦のイチイ (アララギ)	下伊那郡根羽村取手
村	八柱神社の神代スギ 右	下伊那郡根羽村万場瀬
村	八柱神社の神代スギ 左	下伊那郡根羽村万場瀬
村	小戸名のハナノキ	下伊那郡根羽村小戸名
村	白山社のコウヤマキ	下伊那郡根羽村田島
村	離山の大ナラ	下伊那郡根羽村桧原
村	尹良社の大ブナ	下伊那郡根羽村小栃

【恵那市】 19 件

県	自生のヒトツバタゴ	明智町新井 1650、大真菰 1614、大庭 1-1	4 本	幹周囲 0.54~1.14m	恵那市
県	団子スギ	明智町大真菰 1614	1 本	幹周囲 5.5m、樹高 18.2m	恵那市
県	大船神社参道の松並木	上矢作町高井戸 1307-1	延長 4km、赤松 336 本		大船神社・恵那市
県	大船神社の弁慶スギ	上矢作町高井戸 1307-1	1 本	幹周囲 10.6m、樹高 40m	
県	中山神社社叢	串原 3913、3914-4、3916-2	1 ヲ所、9,947 m ² スギ、ヒノキは樹齢 300 年以上		中山神社
県	ひよもの枝垂れザクラ	串原中沢 5325-2	1 本	目通り 3.95m、樹高 16.5m	三宅良平
市	上田薬師堂のサルスベリ	明智町上田	1 本	幹周囲 1.55m、樹高 9m	鈴木勝
市	門野神社のカヤ	明智町門野	1 本	幹周囲 2.5m、樹高 15m	
市	観音堂のイチイ	明智町門野	2 本		
				1-根元周囲 1.75m、樹高 4 m 2-根元周囲 1.9m、樹高 4 m	観音堂
市	猿投神社のヒトツバタゴ	明智町上田	1 本	幹周囲 1.6m	上田地区

市	杉平八幡神社の大杉	明智町杉平	1本	幹周囲 7m	杉平八幡神社
市	滝坂観音堂の枝垂れ桜	明智町滝坂	1本	幹周囲 2.3m、樹高 12.5m	龍護寺
市	八斗蒔の彼岸ザクラ	明智町常盤町 2	1本	幹周囲 2m	田中みつ子
市	大馬渡の大杉	上矢作町漆原 635-1	1本	幹周 7.9m、樹高 16.7m	鈴木峰夫
市	島の大杉	上矢作町 570	1本	幹周 7.35m、樹高 41m	八幡神社
市	新田の桜	上矢作町 2858	1本	幹周 4.4m、樹高 24m	熊谷良一
市	萩原の大栃	上矢作町 2166	1本	幹周 6.3m、樹高 23.7m	塚田育男
市	住畑の大杉	串原 1246-1	1本	安藤志基男	
市	釜井の大まき	串原 1929-101	1本	幹周囲 6.4m	大嶋康平

【豊田市】 97件

国指定 杉本の貞観スギ 豊田市 1944年6月26日 樹齢 1100年 (伝承) 杉本町鳥井前 19

村社神明神社の境内入り口、道路に接したところにそびえ立つ、県下最大のスギ大木である。神明神社の創建が、貞観年間(859~876)と伝えられ、創建当初に社頭に植えられたと伝承されているため、この名がつけられている。胸高約12メートル、根周囲約15メートル、樹高45メートルを超える大きさを誇り、今なお成長を続けている。

県指定	伊熊神社の社叢	伊熊神社	1969年10月29日		伊熊町笠松 2
県指定	琴平町シデコブシ自生地	個人	2003年8月22日		琴平町玄野 990-20
県指定	時瀬のイチョウ	神明神社	1969年10月29日		時瀬町仲切 3
県指定	小原村前洞のシキザクラ	個人	1984年11月28日		前洞町善道和 427-2
県指定	瑞龍寺のシダレザクラ	瑞龍寺	1971年2月8日		稲武町寺下 3
県指定	大野瀬の子持カツラ	大野瀬財産区	1987年9月9日		大野瀬町ヤナジ 17-3
県指定	八柱神社の樟	八柱神社	1956年5月18日		畝部東町川端 1
市指定	いちょう	津島神社	1984年7月1日	樹齢 250年	惣田町小森田 5
市指定	いちょう	常福寺	1984年7月1日	樹齢 300年	楨本町道下 6・7
市指定	いちょう	妙義神社	1984年7月1日	樹齢 350年	伯母沢町高見 6
市指定	イチョウノキ	教聖寺	1983年11月25日		小原大倉町宮ノ根 158
市指定	かごの木	津島神社	1984年7月1日	樹齢 300年	市平町西 8
市指定	カスミザクラ	豊田市	1983年11月25日		市場町陳手 889
市指定	かや	個人	1984年7月1日	樹齢 500年	田津原町町日向 35-1
市指定	かや	個人	1984年7月1日	樹齢 500年	田津原町日向 35-1
市指定	けやき	個人	1984年7月1日	樹齢 300年	押井町東坂 3-1
市指定	しだれぎくら	個人	1984年7月1日	樹齢 350年	田津原町日向 19-1
市指定	すぎ	慈眼寺	1984年7月1日	樹齢 350年	杉本町入 3
市指定	すぎ	津島神社	1984年7月1日	樹齢 500年	惣田町小森田 5
市指定	すぎ	小馬寺	1986年10月1日	樹齢 500年	牛地町駒山 6
市指定	すぎ	小馬寺	1986年10月1日	樹齢 500年	牛地町駒山 6
市指定	つが	妙義神社	1986年10月1日	樹齢 400年	伯母沢町高見 6
市指定	ひのき	個人	1984年7月1日	樹齢 300年	惣田町印竹入 6
市指定	ぶな	小馬寺	1986年10月1日	樹齢 500年	牛地町駒山 6
市指定	ぶな	小馬寺	1986年10月1日	樹齢 500年	牛地町駒山 6
市指定	ベニエドヒガン	個人	1983年11月25日		小原大倉町前ノ洞

市指定	ボダイジュ	教聖寺	1983年11月25日		小原大倉町宮ノ根 158
市指定	むく	個人	1986年10月1日	樹齡 350年	池島町坂口 3
市指定	易往寺のクロガネモチ	個人	1982年4月1日		花沢町小御堂 71
市指定	宇連野のシャクナゲ	個人	1982年4月1日		宇連野町和出貝津 4
市指定	羽布のカヤ	個人	1990年10月1日		羽布町尾関 6
市指定	羽布のブナ	個人	2003年2月1日		羽布町二ノ瀬 14-1
市指定	押山のイヌツゲ	個人	1983年7月7日		押山町的場 402-1
市指定	横川のエノキ	個人	1983年7月7日		稲武町横川口 18
市指定	下川口のいちょう	天神社	1985年3月		下川口町御堂 294
市指定	花沢のケヤキ	個人	1989年4月1日		花沢町小御堂 61
市指定	賀茂原神社のスギ	賀茂原神社	1971年1月10日		小原町森下 476
市指定	楽圓寺のカヤ	楽圓寺	1978年3月25日	樹齡 500年	田振町東入 128
市指定	岩谷のツガ	安勝院	1997年9月3日	樹齡 400年	岩谷町堂ノ下 13
市指定	吉平のヒイラギ	個人	1982年4月1日		野原町奥屋 19
市指定	宮代のイチイ	個人	2003年9月26日		宮代町檜
市指定	宮代のクスノキ	個人	2003年9月26日		宮代町檜
市指定	宮代のハチヤガキ	個人	1971年1月10日		宮代町向イ 154
市指定	拳母神社の樟	拳母神社	1966年5月14日	樹齡 650年	拳母町 5-1
市指定	金剛寺のシダレザクラ	金剛寺	1974年2月10日		北一色町川原 278
市指定	五反田の二本スギ	八幡神社	1982年3月18日	樹齡 600年	五反田町ナギ
市指定	御作のケヤキ	八柱神社	1974年2月10日		御作町小子 191
市指定	御作のサザンカ	個人	1985年3月		御作町正野平 262
市指定	御作のスギ	八柱神社	1974年2月10日		御作町小子 191
市指定	三箇のアラカシ	個人	1974年2月10日		三箇町内坪 11
市指定	三箇のカヤ	個人	1974年2月10日		三箇町兎田 4
市指定	山中若宮神社のカシの群生	若宮神社	1997年9月3日		上八木町坂 5ほか
市指定	四ツ松のアカメヤナギ	四ツ松町	1983年3月25日	樹齡 300年(伝承)	四ツ松町神造 84
市指定	枝垂れザクラ	個人	1983年11月25日		小原北町尾形 144
市指定	七色木	津島神社	1984年7月1日		市平町西 8
市指定	若宮神社の樟	若宮八幡社	1966年5月14日	樹齡 700年	若宮町 2-19
市指定	小松野のカヤ	個人	1990年10月1日		小松野町宮下 61
市指定	小田木のエノキ	個人	1983年7月7日		小田木町モチ洗バ 12
市指定	小田木のカヤノキ	個人	1983年7月7日		小田木町コト 20
市指定	上仁木諏訪神社のアラカシ	諏訪神社	1971年1月10日		上仁木町日面畑 586
市指定	親子スギ	盤照神社	1983年11月25日		築平町岩倉 236-1
市指定	西市野々のアカガシ	八剣神社	1974年2月10日		西市野々町森下 250
市指定	折平のコウヨウサン	向陽寺	1974年2月10日		折平町上屋敷 20
市指定	専休寺のイブキ	専休寺	2000年3月7日	樹齡 150年	中立町小畑前 12
市指定	専蔵寺のツバキの生け垣	専蔵寺	1997年9月3日		栃本町日面 38

市指定	足助八幡宮のイチヨウ	足助八幡宮	1995年3月20日	足助町宮/後 12
市指定	足助八幡宮のスギ	足助八幡宮	1995年3月20日	樹齢 500年 足助町宮/後 12
市指定	大安寺のシダレザクラ	大安寺	1983年11月22日	大野瀬町中貝戸 13
市指定	大草日通しのヒノキ	熊野神社	1971年1月10日	小原町明生院 912-4
市指定	大洞のスギ	白山神社	1971年1月10日	大洞町大洞 422
市指定	大洞のツガ	白山神社	1971年1月10日	大洞町大洞 422
市指定	大日堂のスギ	大日堂	1982年3月18日	樹齢 600年 岩神町仲田 30・31
市指定	大平のサカキ	白山神社	1971年1月10日	大平町宮/前 1
市指定	大平のヒノキ	白山神社	1971年1月10日	大平町宮/前 1
市指定	大野瀬神社のイチヨウ	大野瀬神社	1983年11月22日	大野瀬町宮の腰 20
市指定	大林のケヤキ	個人	1990年10月1日	東大林町中古田 51
市指定	大林のヤマザクラ	個人	2000年12月25日	東大林町上半 14-1
市指定	沢田のシラカシ	八柱神社	1971年1月10日	沢田町森下 208
市指定	田振のアベマキ	神明社	1983年3月25日	樹齢 120年 田振町橋詰 50-1
市指定	田代のナナイロノキ	個人	1983年11月25日	小原田代町セバイシ 67
市指定	田代の二本スギ	八幡神社	1971年1月10日	小原田代町ナギノト 580
市指定	東尾のヒイラギ	個人	1983年7月7日	夏焼町東尾 185
市指定	等順寺のイチヨウ	個人	1982年4月1日	大沼町後庵 100
市指定	白山神社のスギ	個人	1982年4月1日	立岩町クログゴ 22
市指定	白山神社のスギ	個人	1982年4月1日	立岩町クログゴ 23
市指定	白山神社のタブノキ	個人	1988年4月1日	東大林町平岩 2
市指定	八柱神社の樟	八柱神社	1977年3月18日	樹齢 300年 畷部東町川端 1
市指定	八幡神社のスギ・ヒノキ合体木	稲橋八幡神社	1983年7月7日	稲武町宮ノヒラ 1
市指定	百日紅	閑羅瀬町	1984年7月1日	樹齢 300年 閑羅瀬町大切 19
市指定	平勝寺のスギ	平勝寺	1982年3月18日	樹齢 300年 綾渡町奥 12
市指定	平瀬のヒノキ	個人	1999年4月1日	平瀬町森越 54
市指定	峰森神社のコウヤマキ	峰森神社	1971年1月10日	菟萱町ノタノボ 325
市指定	野入神社のスギ	野入神明神社	1983年11月22日	野入町宮の前後 9
市指定	有洞のサワラ	薬師堂	1978年3月25日	樹齢 1200年(伝承) 有洞町向洞 28
市指定	築平のカゴノキ	盤照神社	1971年1月10日	築平町岩倉 235
市指定	猿投山のカツラ	猿投山共有林運営協議会	2013年7月17日	猿投町茂吉ヶ峯 3番地

【岡崎市】25件

県	寺野の大クス	1本	寺野薬師堂	昭和 43年 11月 4日	夏山町
県	切山の大スギ	1本	皇太神社	昭和 43年 11月 4日	切山町
市	聖善寺のしだれ桜	1本	聖善寺	昭和 38年 5月 8日	宇頭町
市	白山神社の大くす	1本	白山神社	昭和 38年 5月 8日	康生町
市	土呂陣屋の松	5本	福岡小学校	昭和 38年 5月 8日	福岡町
市	法蔵寺の桜	1本	法蔵寺	昭和 38年 5月 8日	本宿町
市	藤川のまつ並木	約 90本	岡崎市	昭和 38年 5月 8日	藤川町 延長 1キロメートル
市	奥山田のしだれ桜	1本	奥山田町	昭和 38年 5月 8日	奥山田町

市	石神のちょうせんがや	1株	個人	昭和38年5月8日	駒立町	
市	大樹寺のしい	1本	大樹寺	昭和38年5月8日	鴨田町	
市	五万石ふじ	7株	岡崎市	昭和38年5月8日	康生町	800.00m2
市	見返りの大スギ	1本	天恩寺	昭和46年5月20日	片寄町	
市	夏山の大スギ	1本	諏訪神社	昭和46年5月20日	夏山町	
市	瓶井神社の大ケヤキ	1本	瓶井神社	昭和47年7月5日	保母町	
市	才栗のイチイガシ	1本	白髭神社	昭和47年7月5日	才栗町	
市	才栗のムクノキ	1本	個人	昭和47年7月5日	才栗町	
市	須淵素盞鳴神社社叢	林野	素盞鳴神社	昭和50年3月26日	須淵町	6,179.00m2
市	法蔵寺のイヌマキ	1本	法蔵寺	昭和50年3月26日	本宿町	
市	浄光寺のイチヨウ	1本	浄光寺	昭和50年3月26日	中島町	
市	切越の夫婦ヒノキ	2本	須佐之男社	昭和51年3月31日	切越町	
市	茅原沢神明宮社叢	林野	個人	昭和53年10月21日	茅原沢町	565.00m2
市	瑞雲寺クロガネモチ	1本	瑞雲寺	昭和60年1月26日	石原町	
市	山中八幡宮のクスノキ	1本	山中八幡宮	昭和60年3月6日	舞木町	
市	浄光寺のハマボウ	1本	浄光寺	昭和60年3月6日	中島町	
市	とよとみ梨	1本	個人	平成2年7月6日	鳥川町	

【西尾市】18

国 神明社の大シイ 1樹 高8m 根周り20m 神明社(上永良町)

拝殿前に立つ大シイの木は樹齢約1000年と推定される巨木で、樹高8メートル、根囲20メートル、胸高囲7メートルもある県下最大のスタジイの老樹で、国の天然記念物に指定されています。主幹は伊勢湾台風で倒壊、枯死してしまいましたが、胸高囲1メートル前後の2本の枝幹と周囲に萌芽したひこばえが天高く枝を広げています。

市	米津のセンダン	1樹	センダン科	米津町蓮台
市	下永良のバクチノキ	1樹	バラ科 一名ピランジュ	個人宅(下永良町)
市	慶昌寺のイブキ	1樹	ヒノキ科	慶昌寺(花蔵寺町)
市	龍讚寺のカイツカイブキ	1樹	ヒノキ科	龍讚寺(米津町)
市	聖運寺のイブキ	1樹	ヒノキ科	聖運寺(中町)
市	専念寺のクスノキ	1樹	クスノキ科	専念寺(上羽角町)
市	実相寺のクロマツ群落	13,390m2	マツ科	実相寺(上町)
市	妙善寺のマキ	1樹	マキ科	妙善寺(東幡豆町)
市	沖嶋社のタブノキ	1樹	クスノキ科タブノキ属	沖嶋社(東幡豆町)
市	三ヶ根観音の源平咲き分けのツバキ	1樹	ツバキ科	紅白咲き分け 三ヶ根観音(東幡豆町)
市	西林寺の大椎	1樹	ブナ科シイ属	西林寺(吉良町瀬戸)
市	吉良の五本松	2樹	マツ科	円融寺(吉良町宮迫)
市	観音寺の江戸彼岸	1樹	バラ科サクラ属	観音寺(吉良町津平)
市	円融寺の大榎	1樹	マキ科ナギ属	円融寺(吉良町宮迫)
市	イヌマキ	1樹	マキ科マキ属	教蓮寺(吉良町荻原)
市	羽利神社の双幹大樟	1樹	クスノキ科	羽利神社(吉良町荻原)
市	旧糟谷邸の柞の木	1樹	マンサク科	旧糟谷邸(吉良町荻原)

矢作川流域圏における近年の間伐面積の実績

2014. 12. 19 蔵治光一郎

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
岡崎市 計				365.2	423.9	524.0	418.5	396.4	369.1
公共造林				152.0	104.4	190.0	45.2	43.1	15.3
治山				103.8	87.9	79.1	50.6	38.1	27.6
矢作川水源基金				89.1	109.3	98.8	121.7	128.3	88.2
青木川流域造林					2.6	1.0	0.9	1.8	0.5
県税					66.4	126.5	115.1	126.3	203.3
加速化					13.8	21.8	28.0	7.6	23.4
森林農地整備センター				13.5	19.7	1.4		8.6	2.8
県独自事業等							0.3	5.2	0.0
間伐国有林					15.4		8.4	20.2	6.1
農林公社				6.8	4.3	5.5	48.5	17.2	2.0

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
豊田市 計	1270.0	1351.0	1280.0	1276.0	1477.0	1403.0	1383.0	1112.0	1137.2
保安林	347.0	346.0	421.0	319.0	234.0	228.0	167.0	83.0	96.8
農林公社	254.0	151.0	106.0	87.0	108.0	179.0	322.0	44.0	73.7
県税				5.0	205.0	416.0	436.0	506.0	580.5
県有林	43.0	47.0	14.0	26.0	23.0	42.0	46.0	32.0	29.6
山主自力		10.0	8.0	6.0	34.0	21.0	24.0	91.0	22.6
市補助伐り置き	546.0	697.0	680.0	724.0	788.0	407.0	289.0	217.0	243.8
市補助巻き枯らし			3.0	5.0	3.0	1.0	2.0	2.0	0.0
市補助利用	80.0	100.0	48.0	104.0	82.0	109.0	97.0	137.0	90.1
公共造林				431.0	455.0	270.8	113.3	126.6	94.6
矢作川水源基金				197.0	218.0	156.9	163.2	139.0	155.5
高齢級							4.1		
巻き枯らし				0.0	1.0	1.2	1.5	1.8	
水道水源保全基金				97.0	99.0	32.6	30.5	24.4	20.3
市有林				108.0	100.0	55.9	75.2	64.7	39.2
市単独補助						6.0	6.0	2.0	24.3

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
恵那市 計	907.0	1048.0	1015.0	1040.0	1076.0	1299.0	1032.0	575.7	802.9
造林補助金							291.6	306.6	162.0
条件不利							656.7		
加速化間伐								0.0	41.0
県税								153.4	506.0
美しい森林							13.2	11.3	10.2
保安林							29.4	48.8	28.0
矢作川水源基金							14.3	13.1	10.0
国有林							21.2	24.9	35.1
その他							5.7	17.7	10.6

注
 数値は県の林業統計書数値を引用
 数値の内訳は不明なため集計数値のみ記入
 国有林はH23年からの数値を記入

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
根羽村 計				363	398	288	247	262	215
森林造成等	416	393	346	230	226	265	166		
治山保安林	84	91	33	77	24	27			
緑資源公園	4	16	13	57	26	10	8		
村単独					26	27	6		
その他	18	3			16	23	13		
素材生産業者分									
根羽村の値の計	522	502	392	364	318	352	193		
長野県の値				363	398	288	247	262	215

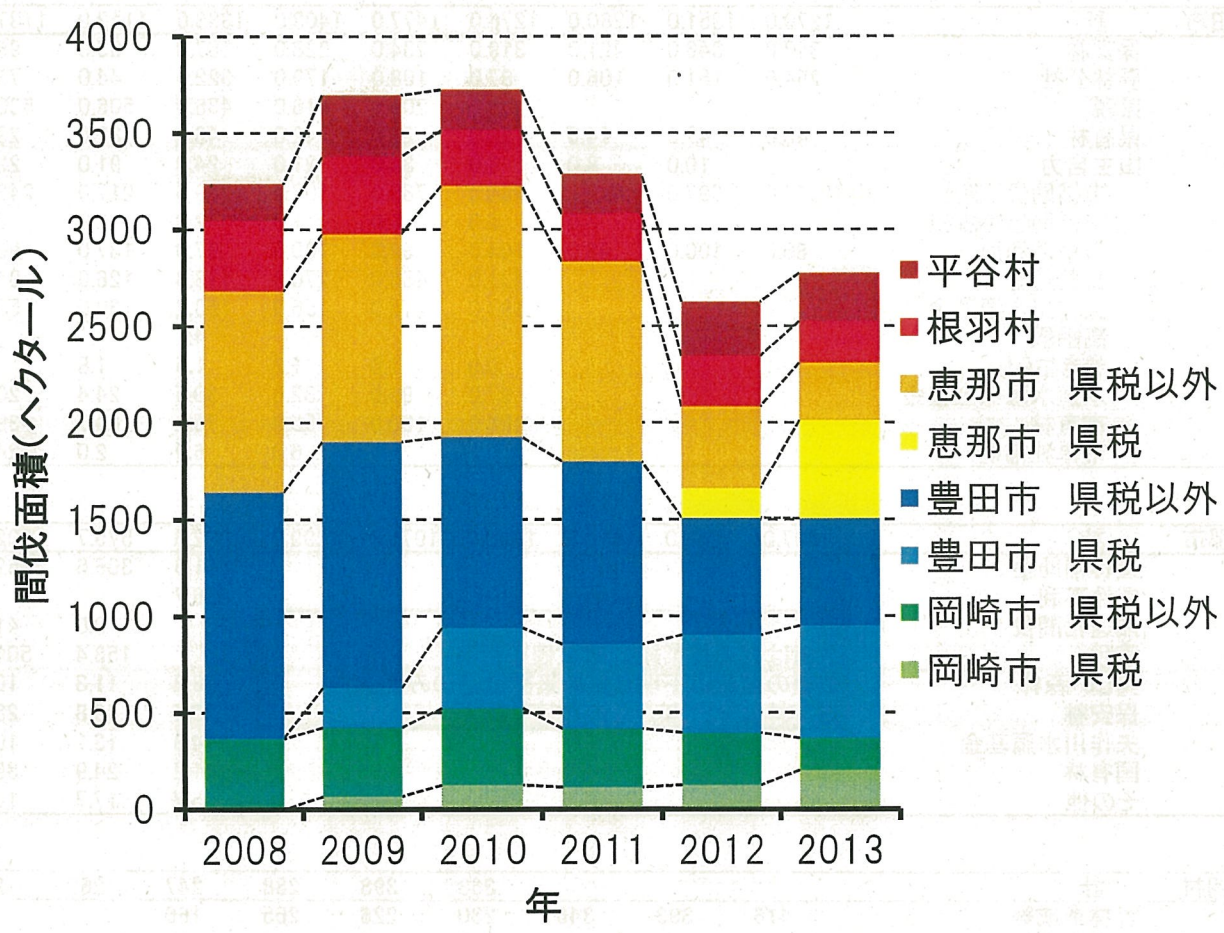
2013年は聞き取りによる推定値

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
平谷村 計				191	321	210	207	280	250
長野県の値				191	321	210	207	280	250

2013年は聞き取りによる推定値

表1-1 国土地院有土地の処分状況（単位：ヘクタール）

区分	2008	2009	2010	2011	2012	2013
計	3,232	3,700	3,720	3,280	2,620	2,780
平谷村	550	700	550	450	300	450
根羽村	550	700	550	450	300	450
恵那市	1,050	1,100	1,250	1,000	450	350
豊田市	1,250	1,300	1,400	1,200	1,100	1,100
岡崎市	350	400	450	400	350	350
県税以外	1,850	2,000	2,150	1,900	1,350	1,350
県税	1,380	1,700	1,570	1,380	1,270	1,430



平成 26 年 12 月 19 日
豊田市 足助事務所

木づかいガイドライン作成資料について

- 1 木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所について
- 2 木づかいガイドラインの原稿依頼について
- 3 木づかい推進・木づかいガイドライン事業のための各市町村連携による予算化について
- 4 スギダラどこでもシリーズの製作内容について
- 5 スギダラ矢作川流域支部の発足及びコンセプトについて
- 6 スギダラキャラバンについて
- 7 森づくり・木づかい推進シンポジウムについて

木づかいガイドライン作成・活動方針（案）

1 木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所について

提案者・モニター・場所についての考え方は下表のとおりとして、共通認識を持って、その役割を担う方・場所を選定したい

区 分	内 容
提案者	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに木づかいの実績のある方 ・その取り組みが将来的な木づかい推進に結びついている方 ・心から本心でその木づかいに取り組まれている方
モニター	<ul style="list-style-type: none"> ・その提案に対する見込客と考えられる方 ・その木づかい推進の中心的な対象（年代）と考えられる方 ・その方に教えると多面的な展開が期待される方
場所	<ul style="list-style-type: none"> ・その取り組みの実績がある場所 ・その取り組みを発信する際、中心的な方・組織の存在する場所 ・その取り組みの活動拠点が作れるところ
イベントの性格	<ul style="list-style-type: none"> ・木づかい需要創造イベント ・木づかい体感・センスオブワンダーイベント ・木の感謝祭イベント

2 木づかいガイドラインの原稿依頼について

木づかいガイドラインの原稿依頼については、次のとおり共通認識を持ちたい

- ・ 提案者は上記のモニターと一体となって、その取り組みを広げていく「木づかいの潮流」を意識して、原稿を作成する
- ・ 特にモニターを「見込客」と意識することから、モニターに何を感じてほしいか、興味を持ってもらいたい点は何か、を明確にして提案する

NO	原稿依頼者	テーマ	時期

- ・ 当面、すぐに記載が可能なネバリン・豊田森林組合からスタート
- ・ 趣旨の説明文
- ・ ガイドラインの案内文

3 木づかい推進・木づかいガイドライン事業の各市町村連携による予算化について

今後の「木づかい推進・木づかいガイドライン事業」を進め、木づかい推進による「地域森林資源の整備と活用」、「木づかい上下流連携によるフェアトレードの実現」、「木づかい推進スタイルの確立による持続可能な地域づくり」等、実効性を高めるためには、矢作川流域圏懇談会に参加されている各県・市町村・関係団体の持続的・共通認識的な予算化による支援が必要と考えられる。

そこで、こうした各関係団体が「木づかい推進」の必要性を認識し、予算化しやすくするため、国土交通省及び「山部会からの提案＝各県の木づかい推進を願う市民」からの声として、矢作川流域圏懇談会に参加されている各関係団体へ「木づかい推進・木づかいガイドライン事業」の予算化を要望していきたい。そのまとめ役は国土交通省とし、その内容（案）は以下のとおりである。

予算依頼者	事業名	ポイント
県	・木づかい推進活動拠点支援事業	・木づかい推進に必要な活動拠点となる施設・空間の提供・設置に対する支援 ・木づかい推進活動の「道の駅」利用に対する斡旋
市町村	・木づかい推進活動支援事業	・木づかい推進活動に必要な人件費・試作材料費・活動場所提供等に対する支援
団体	・木づかい推進事業	・木づかい推進・普及を図るための独自予算化

4 スギダラ「どこでも～シリーズ」の製作内容について

山部会における木づかいガイドライン作成にあたり、今後多面的な活動が予想されることから平成26年9月3日の「全国スギダラケ倶楽部」の若杉会長の講演をきっかけに、「スギダラ矢作川流域支部」の設立及び支部長の任命が計られ、事務局を根羽村森林組合とし、支部長については山部会木づかいガイドライン担当の今村が担うことに決定された。再度、この決定について10月17日の山部会で再確認を行った。

すでに、木づかいについては根羽村がリーダー的な役割を担って欲しい、との意見もあることから、根羽村における木づかい推進活動については「スギダラ矢作川流域支部」としての活動としてもリンクさせたい。

そこで今後、根羽村における木づかい推進活動も「スギダラ矢作川流域支部」の活動に組み込み、市民の全ライフステージに関われるようなスギダラ（ヒノダラ・広ダラ）商品をモ

ニターの意見を取り入れながらデザイン化して、「どこでも～シリーズ」として試作する。

販売については、スギダラ活動の精神である「誰でもどこでも製作販売できるオープン商品」としたいため、デザイン料を販売価格の5%に設定してデザイン提供者に支払う形で、販売製作者を限定せずにスギダラ製品を流域内に広めていきたい。

矢作川流域圏懇談会ご提案・ご推薦

「人が居心地よく居られる場所・空間」づくりのためのスギダラ製品（案）

NO	製品名	内容
1	どこでも足湯	V1、V2
2	どこでも露天風呂	
3	どこでもブランコ	
4	どこでもピザ窯	ピザ窯用台座
5	どこでも屋台	KATARI-BAR、コンパクト屋台、連結決傘屋台、機内もつこみ屋台
6	どこでもウッドデッキ・ベンチ	杉太、高杉太、ちよいと一杯飲み杉太、タコ杉・イカ杉、タコマツ、イカマツ、コーンマツ、ノシマツ
7	どこでもなんでもテーブル	
8	どこでも紙芝居	
9	どこでも焼菓子店	
10	どこでもバンブードーム	
11	どこでも屋外用読書イス机	
12	どこでも木の内装	
13	どこでも木の看板	
14	どこでも地元の木を使った木の家	

5 スギダラ矢作川流域支部の発足及びコンセプトについて

発足

「スギダラ矢作川流域支部」は、矢作川流域圏懇談会の山部会における木づかいガイドライン作成にあたり、今後多面的な活動が予想されることから平成26年9月3日の「全国スギダラケ倶楽部」の若杉会長の講演をきっかけとして、その当日に設立されました。支部構成員は矢作川流域圏懇談会に関連する木づかい推進活動者です。事務局は根羽村森林組合、支部長は、木づかいガイドライン担当者の今村に決定されました。

コンセプト

「スギダラ矢作川流域支部」は、「全国スギダラケ倶楽部」の活動趣旨に準じ、戦後の復興期に段階的に植栽されてきた矢作川流域のスギやヒノキを始めとする人工林をきちんと活用することを目的とします。同時に、森林の整備を推進して森林の公益的を高め市民生活を守ると共に、流域内の林産業の振興による山村・里山の経済的な自立を図ります。

さらに、矢作川流域市民の全ライフステージを対象に、矢作川流域の人工林を活用した「スギダラ」活動による木づかいにより、市民生活の様々な場面における魅力的な生活空間を創造して「地域の人の輪」、「地域の元気」を生み出すことを目的とします。

注)「スギダラ活動」とは、流域内のスギ・ヒノキの人工林や広葉樹をきちんと活用して、あらゆる生活空間を「スギダラケ（ヒノキダラケ・広用樹ダラケ）」にする活動である。

6 スギダラキャラバンについて

「スギダラ矢作川流域支部」の発足に伴い、今後「スギダラ製品」の展示や木づかいイベントを流域内の公園、道の駅、保育園、小学校等の校庭等で開催し、そこに各森林組合、地元工務店、木材関連業者、地元企業、地元商店街、とよた森林学校の卒業生、地元の木のファン等がジョイント的に「木づかいに共感」を持って参加できるような「スギダラキャラバン」を定期的に開催し、地域を元気にする「人の輪」を作っていければと考えます。

また、木づかい推進活動を支援していただける各市町村や教育委員会等と連携して、実行者が余り大きな負担を感じることなく、流域市民の全ライフステージに渡って「木の魅力」を伝え、地元の生活空間を「人が居心地よく居られる場所・空間」にしていくスギダラ（ヒノダラ・広ダラ）活動に発展させていくきっかけづくりにしたいと思います。

全国的な市民運動となった「森の健康診断」や「木の駅プロジェクト」の成果と併せて、今度は「生活空間に木を使おう・木づかいライブ・スギダラキャラバン」を矢作川の地から発信できればと思います。

「生活空間に木を使おう・木づかいライブ・スギダラキャラバン」(イメージ案)

場 所

区分	緑地公園	道の駅	商店街	校庭	集客施設	祭り	イベント	里山
愛知県								
岐阜県								
長野県	ネバーランド・平谷スキ一場	ネバーランド・平谷道の駅	根羽村民駐車場	根羽トレーニングセンター	グリーンハウス森沢	7年祭・やまあいフェス	ねば来恋	月瀬の大杉・小戸名溪谷

実践者

区分	森林組合	流域圏懇談会	担い手グループ	地元市民グループ	地元工務店	地元商店街・企業	大学
愛知県	豊田・岡崎	○					
岐阜県	恵南	○					
長野県	根羽・飯伊	○	木の駅・ねばりん	すぎっ子餅・猟友会	名工家	アイシングループ	信州大学・岐阜女子大学

木づかいライブ内容

木工作等	木のペンダント	木の表札・木はがき	弓矢・的あて	輪っば弁当箱	箸づくり	水鉄砲	木材業者木の展示品
どこでもシリーズ	どこでも足湯	どこでも露天風呂	どこでもブランコ	どこでも屋台	どこでもバンブードーム	どこでも紙芝居	どこでもウッドデッキ・ベンチ
踊り	アヒルのダンス	よさこい	カルメン	イナバウアー			
ロック	岡崎フォレストーズ						
食	根羽村食の文化祭	根羽村しし鍋	根羽村鹿肉カレー	宮崎茶			
近くの木質内装化対象施設	駅舎	サービスエリア	待合室子供施設	病院	喫茶店	商店街	空港
ご案内・配布資料等	森・木づかいガイドライン	担い手グループ集	蔵治・丹羽・洲崎書籍	とよた森林学校パンフ	各森林組合パンフ	地元工務店木の家づくり資料	その他森と木のガイド集

資金支援事業

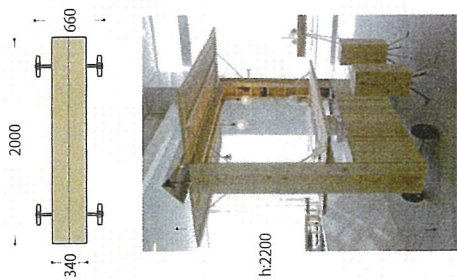
区分	内 容
愛知県	
岐阜県	
長野県	木育関係事業・地域発元気づくり支援事業・信州の木活用事業・根羽村林業振興補助金・公募事業

34 -

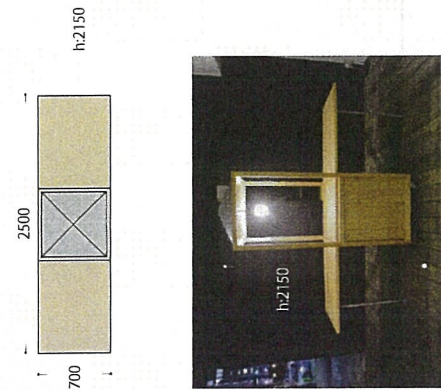
屋台平面図

S=1/50

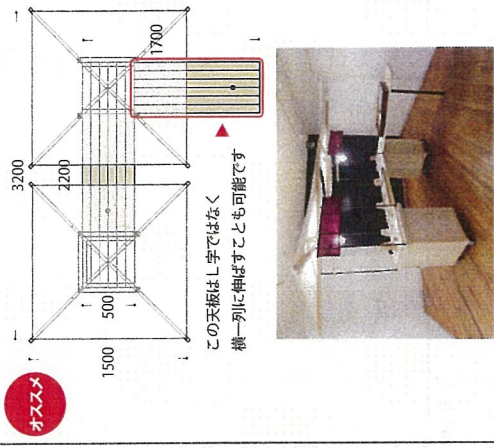
KATARI-BAR 1台



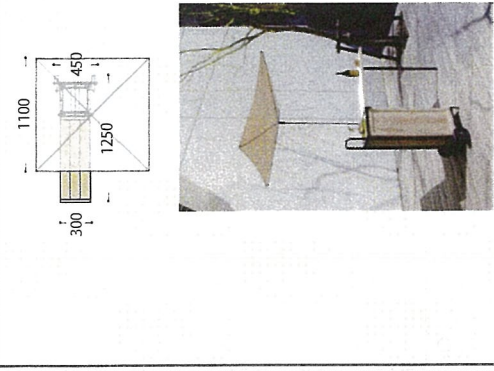
コンパクト屋台 1台



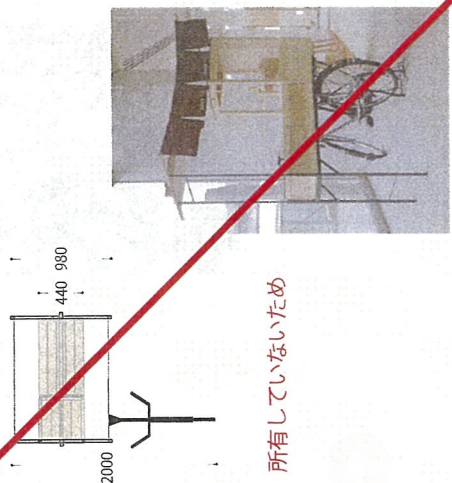
連結決傘屋台 1セット



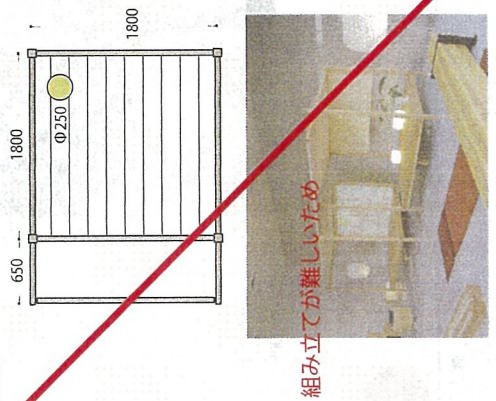
構内もつこみ屋台 1台



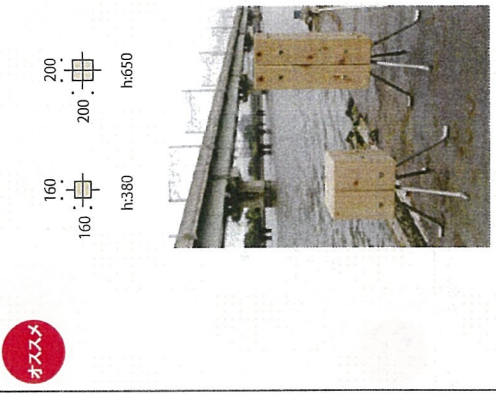
自転車乗降屋台 0台



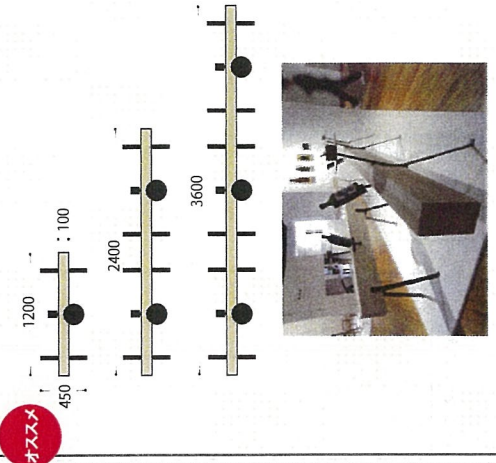
杉テント 2セット



タコ形・イカ形 各2脚



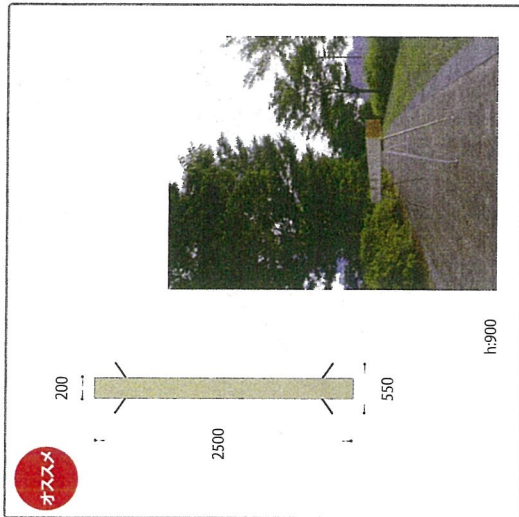
ちよいと一杯 (飲み杉太) 各1脚



屋台平面図

S=1/50

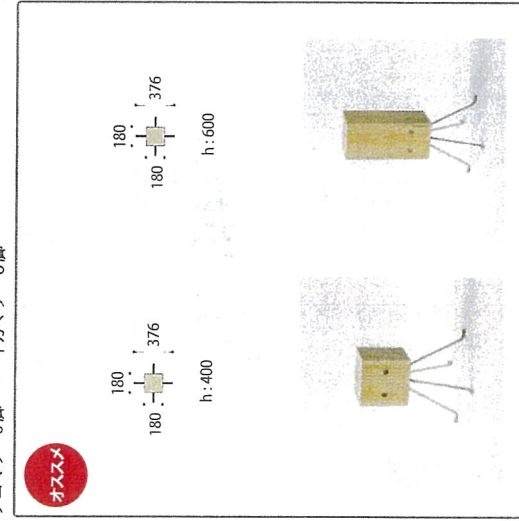
高杉太 1台



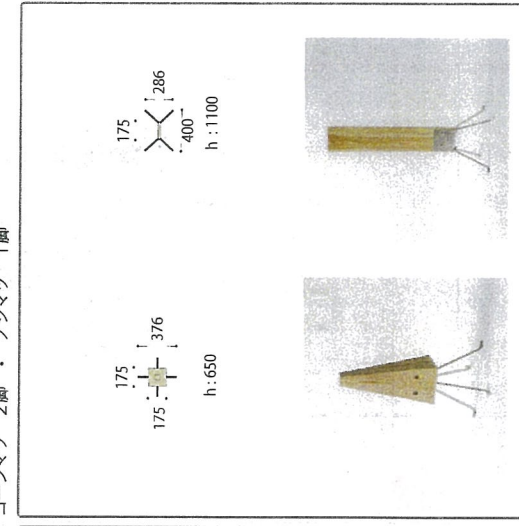
杉太 2脚



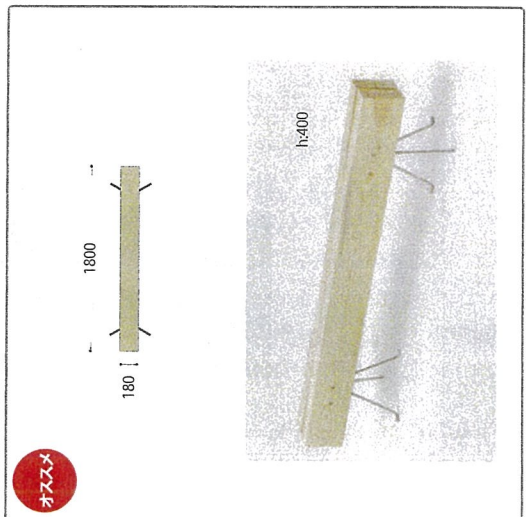
タコマツ 6脚 ・ イカマツ 0脚



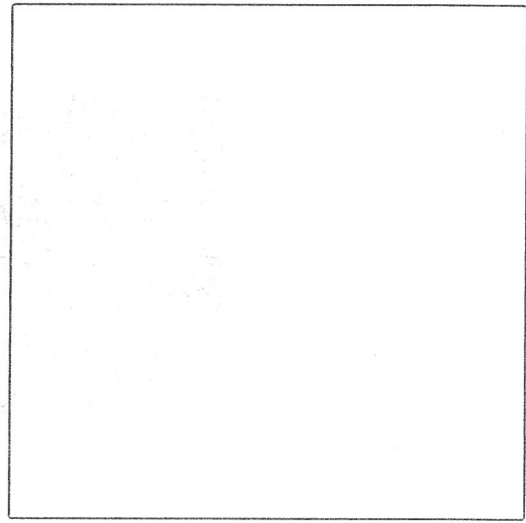
コーンマツ 2脚 ・ ノシマツ 1脚



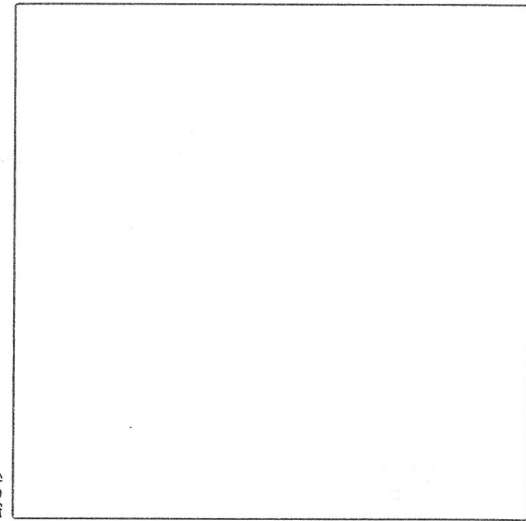
フタゴマツ 1脚



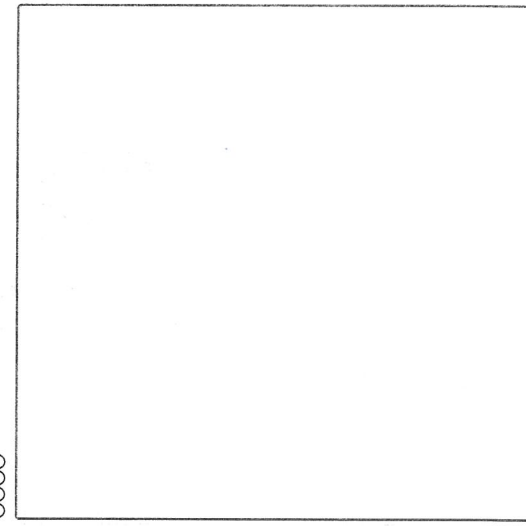
杉太



動き杉



〇〇〇〇





(案)

長野県・岐阜県・愛知県合同主催 矢作川流域圏 森づくり・木づかい推進シンポジウム
矢作川流域における森林資源の管理・活用と県境を超えた市民産官学連携による
これからの持続可能な流域づくりを考える

1 基調講演 10:30～12:00

「矢作川流域における森林資源の管理・活用と県境を超えた市民産官学連携による
これからの持続可能な流域づくりを考える」

東京大学生態水文学研究所 所長 蔵治光一郎

2 事例発表 13:00～15:00

長野県 根羽村森林組合 代表理事 大久保憲一

「根羽村トータル林業と上下流連携・木づ
かい推進による持続可能な地域づくり」

愛知県 豊田市経営戦略室 政策監 原田裕保

「豊田市における市民が中心となった地
域森林自治の取り組みと地域材活用」

愛知県 矢作川水系森林ボランティア協議会 代表 丹羽健司

「全国的な市民活動となった森林の健康
診断 10 周年を迎えて」

岐阜県 NPO 法人 奥矢作森林塾 理事長 大島光利

「地域資源を活用した田舎暮らし提案と
山村部における定住促進の取り組み」

3 パネルディスカッション 15:00～16:30

コーディネイター 信大農学部教授 植木達人 または
慶応義塾大学教授岸 由二

テーマ「矢作川流域における森林資源の管理・活用と県境を超えた市民産官学連携
によるこれからの持続可能な流域づくりを考える」

パネラー 講演者及び各事例発表者

- 4 日 時 平成 27 年 1 月 23 日あたり、またはそれ以降
場 所 「根羽村しゃくなげ」または「豊田市公共施設」
展 示 チャレンジスギダラ製品

(例)

今すぐはじめる木のある暮らし

矢作川流域 「木づかいガイドライン」



矢作川流域圏懇談会

「森づくり・木づかいガイドライン」の作成及び活用することの意義

矢作川流域住民の社会生活に欠かせない水資源の安定供給を図るためには、矢作川流域にある森林資源を適切に管理して、自然災害に強く、大雨の時にも水を蓄えることのできる水源かん養機能等の森林の持つ公益的機能を発揮できるような森林に整備していく必要があります。

特に、将来木を伐って利用することを前提にして植えられた上流域に存在するスギやヒノキの人工林は、現在 40 年生以上の森林が多く、計画的な間伐により木の年齢に応じた適切な立木本数を維持していく必要があります。これは、木材として木を太くする必要性と、林内に陽光を入れて地表面の草や灌木類等の植生を繁茂させ、森林土壌を育成させて、降水による雨水の保水機能を高めるためです。陽光が林内に差し込まない暗い人工林は、地表面の植物が育たず森林土壌が育成されないため、雨水が地表面から浸透せず表面水として流れてしまい、その表面水が地表面を浸食して山崩れや鉄砲水等の山地災害発生の要因となります。平成 12 年、長野県南部や愛知県・岐阜県における恵南豪雨の際、矢作川ダムに流れ着き堆積した約 35,000 m³の木材の残骸は、その大半が間伐されずに放置されていた過密な人工林によるものだったことがその後の調査で判明しており、その他にも同地域の山崩れの多発や、増水による豊田市での一部堤防欠壊等、過密となった人工林の保水力の低下が災害発生の大きな要因になっていると考えられています。

また、隣り合う木と枝先が触れ合った時に間伐をしないで放置すると、次第に樹木の下側の枝の葉に陽光が当たらなくなってくるため、立木の枝が下から枯れあがって樹木全体の葉の量が減少します。そうすると、光合成を行う葉の量が減少して、木を太くすることが困難になってしまい、木材として必要な太さが確保できず、木材として利用しづらくなってしまいます。

現在こうした間伐等の森林整備については、国の森林整備事業を活用して地域の森林組合等が森林整備を推進していますが、間伐を必要とする森林はどの森林組合も非常に多く、また、ひとつの人工林について一定の年数を置いて 3～5 回程度の間伐を行う必要があります、毎年一定面積の間伐を実施しているところです。

将来木を伐って利用することを前提にして植えられたスギやヒノキであるのに、どうして現在の矢作川の上流域にはこうした間伐を必要とする人工林が多く存在しているのでしょうか。その大きなきっかけとなった出来事は、戦後急速な高度経済成長が進展したこと国内における深刻な木材不足が発生したことです。これを早急に解決する必要性から関税をかけない外材輸入が昭和 39 年から始まると、外材に比べて価格が高く、多品目で少量の扱いとなる国産材と比較して、価格が安く、均一に、大量に輸入される外材の方が扱いやすいため、急激に外材の輸入量が増加したことによって、昭和

50年代には国産材の自給率が約20%までに落ち込むほど、国産材の地位が低下してしまいました。

国産材は、こうした外材の輸入増加や、同時期に進展しだした工業製品による代替材の出現等によって、需要の落ち込みによる材価の低迷と、人件費の上昇傾向に伴う木材搬出コストの増大により、木材としての魅力が薄れ、森林所有者においても山に関心がない、山を持っていても何の得にもならない、という認識が全国的に一般的なものになり現在の状況に至っています。このため、森林所有者個人として間伐をして山を育成したり、山から木材を搬出して収入を得よう、という考えを持った森林所有者の方がほとんどいなくなってしまったのが現状であり、間伐による森林整備の時期的な遅れや、さらにそこから木材を搬出して利用しようとする人工林の本来的な活用に取り組めていない地域が非常に大きくなっています。場合によっては、所有されている森林の区域が不明確になっていたり、地域に所有者が居住されていなかったり、そのため森林整備に取り組めない、という厳しい現状を抱えている地域もあります。

こうした上流域の人工林の整備状況は、矢作川流域住民の社会生活に必要な水資源の安定供給に大きな問題として関わってきます。水資源が不足することなく安定的に供給されること、大雨などの異常気象の際に、地滑り、山崩れ、鉄砲水、洪水、河川の増水による堤防の欠壊等、下流域での水害を未然に防止するためには、上流域にある森林資源が常に適切に整備されている必要があります。

では、こうした矢作川流域内の森林整備をどのように適切に進めていくべきなのでしょう。こうした課題の解決に向けた取り組みを検討するには、個々の行政単位の枠を超えて、流域単位の共通認識を持って取り組む必要性から、国土交通省が関係する市町村や関係団体、市民に呼び掛けて「矢作川流域圏懇談会」を立ち上げました。そこで、課題のテーマごとに山、川、海の3部会を設置して、この中の山部会で検討を進めているところです。ここでは、適切に森林整備を推進していくためには、どのように森林整備を推進していくべきなのか、それを担う人々が山村等で経済的に安定し自立した生活をしていくためにはどうしたらよいのか、現在どんな方々がどのような方法で山村や里山での営みを見出しているのか、ということをも山村や里山、矢作川流域に関係する様々な立場の方が集まって検討しています。その過程の中で、森林整備を推進させるためには、その担い手である森林組合や素材生産を営む者、山村住民が経済的に安定し自立した生活を持続可能なものにすることが重要であるという認識がなされました。同時に、こうした山村での経済的自立を支える地域産業として、林産業の振興こそが重要であり、このためには下流域の住民等に上流域の森林資源を利用してもらう「木づかい」を推進していくことが、課題解決のための一手法であるという共通認識が生まれました。

矢作川の上流域にある人工林を下流域の方々によってきちんと活用されることが、森林整備を進め、そのことによって、水資源の安定供給や持続可能な山村社会の形成に結びつきます。地元の木を地元で使って、地域社会を形成していくという、ごく当たり前の図式を、私達はこの矢作川から展開したいと考えています。それには、昔はどこでも

普通にあった地元の木づかいの思想から、流域の共通認識を得ていかなければなりません。そして皆さんの普段の暮らしや、身近な生活空間を「木のある暮らし」に変えていくことがひとつのポイントになります。それも、木ってすばらしいなあー、という木を使うことに対する共感を持って、木をもっと身近に感じていただければと思います。このため、「木づかいガイドライン」は少しでも、皆さんが行動を起こしやすいように、少しでも木に共感を持てる場面を提供できるように市民の目線から、市民、行政、業界、研究機関のそれぞれの立場の方々から様々な提案をいただいて成立しています。

この「木づかいガイドライン」の今日的な意義は、こうした様々な立場の方々や県や市町村、業界に所属しながらも、それらの枠組みを超えて、矢作川の流域単位の意識を持って市民の目線から木づかい運動を進めていこうとするところにあります。行政主導ではなく、木づかいに対して共感を持った木のファンからの「木づかい推進草の根運動」と認識していることです。どんなテーマを、どんな提案者が、どんな思い入れを持って提案しているか感じ取ってください。そこがこの木づかいガイドラインのポイントです。職制上や組織としての提案もありますが、基本的に木に対して思い入れのある提案者による「さあ～しよう」という内容の提案となっています。

木づかいガイドラインによって、すぐに役立ち一生使える技能も身につけて頂けると思います。そうして、木づかいを覚えていただいたら、今度はあなたが主役になって木づかいを進め、また提案してください。そうすることによって、新たな木づかいのテーマや、人の輪や、木の先生が生まれていくことでしょう。このサイクルはきっと間違いなく、地域を元気にしていくものだと思っております。

木づかいガイドラインを始めて手にした方々へ

「木のある暮らし」を始めるためのガイドラインの楽しみ方

「木づかいガイドライン」はあなたが主役になって、あなたのライフステージを「木のある暮らし」に変えていく楽しい提案がたくさんあります。最初は、あなたが取り組めそうなテーマを選んで、ご自身自ら楽しんでみてください。テーマは様々な木づかいから、森に出かけていって楽しむものまでたくさんあります。

あなたが「木のある暮らし」の扉を開くと、そこには森や、森や木に関わる人達のもとも大きな人の輪につながる無現の世界が広がっています。その世界は、あなたの心の中にきつととても魅力的で豊かな時間を作り出すことでしょう。

木の楽しみの原点は何でしょうか。それは、自分の好きな木を使って、自分の思い通りに様々なものをつくることです。木を手にとって、まず木の温もりを感じてください。その木と友達になってください。木の木目や色合いや香りを感じてください。そこから、あなたが木と共に過ごす時間と比例して自然に高まる知識や技能を楽しんでください。今まで知らなかった魅力的な世界が目の前に一杯広がっていることをあなたは感じることでしょう。自らの手づくりによって「木のある暮らし」を始めることによって、木と友達になって自分の時間を作り、そして自らの知識と技能を高めて「生活の品質」を高めてみてください。

いくつものテーマの中で、あなたができるようになったもの、それは、今度あなたがその場面で主役になれるということです。そのテーマの技術を使って今度はあなたが主役になって木の魅力を多くの人に伝えてほしい、と思います。そこで、なにか課題を感じたらこのガイドラインにのっている方々に相談してみてください。きっと、参考になるたくさんのヒントを教えてくれることでしょう。また、新しく得られた知識・経験・技能は木づかいガイドラインに提案してください。皆で、矢作川流域の木づかいの場面や品質を高めていきましょう。

木づかいガイドラインを作った私達は、これから矢作川の流域圏を活動対象とした「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を開始します。この取り組みはできる限り、各地域のイベントやお祭りなどの時に、木を楽しむイベントを開催して、木の魅力を伝え、同時に木づかいガイドラインも配布して、木のファンを増やしていくことが目的です。このイベントに皆さんが参加され、一緒に木のお祭りを各地で展開していきましょう。あらゆる立場の方々がその立場の垣根を越えて「木づかい」で新たな絆を結びつけていきましょう。そして、流域に住む住民が協力しあいながら、矢作川の流れと共に魅力ある「木のある暮らし」を進める「矢作川デイズ」を楽しみましょう。

木づかいガイドライン 市民編A (案)

NO	内 容	提案者	モニタ ー	場所
1	弓矢づくりにチャレンジしよう	ネバリン	小学生	根羽
2	自分の好きな木のペンダントを作ってみよう	ネバリン	小学生	根羽
3	自分でマイお箸を作ってみよう	ネバリン	小学生	根羽
4	自分のお家の木の表札づくりチャレンジしてみよう	ネバリン	小学生	根羽
5	自分の好きな板をピカピカに磨いて自分だけの宝物にしてみよう	根羽小	大人	根羽
6	自分で薪を作ってドラム缶風呂を沸かし湯につかろう	ネバリン	小学生	根羽
7	木の葉っぱで部屋の匂いをよくしてみよう	根羽小	小学生	マイルーム
8	木のカルタ取りにチャレンジしよう	ネバリン	小学生	原っぱ
9	自分のマイツリーを見つけて名前をつけよう	丹羽	ファミ	恵那
10	いよいよ自分で森づくりにチャレンジしよう (サクラ山・花の山)	伐採者秀美	新婚	根羽
11	木の幹 (マイツリー) にハンモック (どこでもマイウッドデッキも) を吊るして涼しく昼寝してみよう・山の中のコーヒータイムを楽しもう	丹羽・ハンモック 2000	ファミ	恵那
12	ツリーハウスに遊びに行こう	豊中建設	ファミ	根羽檜原
13	自分だけの露天風呂と足湯を手に入れよう	ネバリン	女子	根羽檜原
14	自分のお風呂に木を浮かべて香りを楽しもう	根羽小	女子	お風呂
15	日本の代表 50 種の樹木を覚えよう (葉の標本づくりにチャレンジ)	豊田森組	大学生	豊田
16	自然の生き物観察場所の看板を立てよう	豊田森組	小学生	豊田
17	日本人なら木のお風呂のある温泉につかろう (中房温泉)	中房温泉 沖・松井	熟年・ 青年 (土 屋・長谷 川)	安曇野
18	チェンソーアートを学ぼう	ネバリン	青年	根羽
19	色々な木のおもちゃづくりや木工工作にチャレンジしよう	ネバリン	父と子	根羽
20	きれいな川で遊ぼう	JTN	小学生	根羽
21	自分だけの滝に道を開けてマイナスイオンを浴びよう	こもれば	女子	根羽
22	木のある公園のウッドデッキで読書しよう (ブックレビューもつくろう)	ネバリン	読書人	安城
23	木と森のある素晴らしい大学に遊びに行こう (信州大学農学部ゆりのき)	信・名大生	高校生	信大・名大
24	筏 (ボート) で川下りにチャレンジしてみよう	筏隊・アル	中学生	岡崎・飯田
25	木のお店案内ブックをつくろう・木のアンテナショップに遊びに行こう	沖・松井	お仲間	流域内
26	スギダラチームの輪を広げて全生活空間をスギダラけにしよう	若杉・ 丹羽・今村	木の人	豊田駅・トヨタ 自・アイシング グループ・安城市
27	夜空を見上げ星と森の声聴こう	星と森の人	小学生	根羽森沢

28	木の科学実験で木を良く知ろう・木を使おう・木を楽しもう 輪っば弁当箱づくりにチャレンジしよう	根羽小・ 花野屋	小学生 ファミ	エコフルタウン 根羽
29	自分達の力で山の木を搬出して地域通貨を手に入れよう	南木	山親父	根羽・豊田
30	自分達の力で豊田から根羽まで縦走路を整備して休憩小屋を建てよう	山岳会・店	豊田隊	根羽・豊田
31	自分で取り組んだ森の健康診断を活用しよう	矢作川研	豊田人	豊田
33	木の小屋においてよ（中村好文さんと連携）	中村好文	開拓者	遊休農地

木づかいガイドライン 県・市町村編B（案）

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	山主森林経営講座に参加して自分の山を管理の仕方を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
2	森林自然観察リーダー入門講座に参加して自然観察の基本を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
3	間伐ボランティア初級講座に参加してチェンソーによる間伐を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
4	山主自力間伐講座に参加してチェンソーを使って自分の山を間伐しよう	豊田森組	豊田人	豊田
5	セミプロ林業作業者養成講座に参加して林業就業者を目指そう	豊田森組	豊田人	豊田
6	森林セミナーに参加して色々な森林を歩きながら森林管理を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
7	矢作川源流の森ウォーキングに参加して源流域の動植物を観察しよう	豊田森組	豊田人	豊田
8	夏休み昆虫観察に参加して森の生き物の生活や不思議さを体験しよう	豊田森組	豊田人	豊田
9	初めての間伐体験に参加して簡単にできる間伐を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
10	森林調査いろいろ学習会に参加して植生・林分・土壌調査の基本を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
11	「木づかい」いろいろ発見に参加して原木きのこの菌打ちを体験しよう	豊田森組	豊田人	豊田
12	森林の草花調べに参加して高原・山地・丘陵の草花を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
13	間伐してベンチの製作まで全工程を自分達で行い、公共施設に寄付しよう	豊田森組	豊田人	豊田
14	様々な山の助成金制度を活用して自分の山づくりに取り組もう	各森組	森林所有者	豊田他
15	様々な木の家づくりの助成金制度を活用して地元の木で家を建てよう	各県	お施主	各県
16	地元の木を使った住宅見学会に参加して地元の木で家を建てよう	各 県 ・ 工務店	お施主候補	各県
17	木造公共施設を訪ねて木の使い方を参考にしよう	豊田・ 根羽・工 務店	市町村	豊田・ 根羽
18	各地で取り組まれている間伐材利用事例を参考に矢作川流域材を活用しよう	各県	市町村	
19	根羽スギの家モデル住宅に体験宿泊して木の家を楽しもう	根羽村	お施主候補	根羽
20	長野県地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	ネバリン	各 NPO	根羽
21	根羽村地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	根羽村	村民	根羽
22	根羽スギ柱材 50 本無償提供事業を使って有利に根羽スギ住宅を建てよう	根羽	お施主	根羽

23	市町村有林を使って新しい森づくりにチャレンジしよう(伐採・造林一貫施業)	ネバリン	森林所有者	根羽
24	市町村有林を使って子供たちに間伐を教えよう	各森組	小中学生	全市町村
25	皆で憩いの森の木道・木橋づくりにチャレンジしよう	ネバリン	市町村	根羽
26	都市の中心部に緑の憩いの公園を計画してつくろう(豊田市・番外飯田市)	豊田飯田	市町村	豊田・飯田
27	長野県 信州型エコ住宅推進事業 50～80万円の助成を利用しよう	長野県	お施主	長野
28	長野県 信州型住宅リフォーム促進事業 20～50万円の助成を利用しよう	長野県	お施主	長野
29	岐阜県 産直住宅建設支援制度 105,000円相当の木材支給を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
30	岐阜県 ぎふの木で家づくり支援事業 20万円の助成を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
31	岐阜県 ぎふの木で内装木質化支援事業 10万円の助成を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
32	岐阜県 ぎふの木で家づくりローン支援制度 優遇金利による支援を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
33	愛知県 あいち認証材利用促進事業 構造材・造作材等 8,000円/m ² の助成	愛知県	お施主候補	岐阜
34	材料施工分離発注方式で適正な木材製品価格で計画的に建築材料を入手しよう	豊田市	各市町村	豊田

木づかいガイドライン 業界編C (案)

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	君も人生の方針として自然科学や農林業を選択しよう	ネバリン	中・高校生	根羽
2	君も、自分が主役になれるクリエイティブ産業・農林業の担い手になって地域を元気にしよう	ネバリン	信大・名大・岐阜女子大他	根羽
3	君も夢と希望あふれる地元の森林組合職員になって、豊かな自然の中で森づくりと木づかいを楽しもう	ネバリン	山の人	根羽
4	森づくりの達人(森の民)になるために様々な技能を身につけよう	各森組	山の人	全流域
5	森林簿と施業図を使って自分の山を覚えよう	豊田森組	森林所有者	豊田
6	自分の山づくりのプランを建ててみよう(オーダーメイドの山づくり)	ネバリン	秀美	根羽
7	様々な木材の搬出方法を見学しよう	各森組	山の人	全流域
8	山の技能作業手順書をマスターしよう	ネバリン	山の人	根羽
9	自分の山の木がいくらになるか森林施業プランを提出してもらおう	根羽・恵南	山の人	根羽・恵那
10	自然を楽しむ様々なグッズを手に入れて自然の中に飛び出そう	洲崎	女子	豊田
11	国産材の家づくりに実績のある工務店・建築士さんに会いにいこう	お施主	お施主候補	全流域
12	机やイス・家具など一生使える木製品の注文をしよう	阿部建設	ファミ	根羽
13	一生使える机やイス・家具など木製品を家族で製作してみよう	阿部建設	ファミ	根羽

14	魅力ある国産材製品のカタログを入手して木のある暮らしをはじめよう	販路開拓	ファミ	長野
15	森づくりと木づかいに取り組む、知って得して面白い魅力的な方のお話を聞きにいこう	事例集	市民	全流域
16	製材工場の端材を使って小屋づくりをしよう	ネバリン	山の人	根羽
17	住宅建築フェアを見に行こう	ネバリン	お施主候補	開催地
18	東京おもちゃ美術館を見学し児童向け木のおもちゃを研究しよう	ネバリン	保育園	東京
19	ナイス企画 需要創造型イベント・体感ツアー・木の感謝祭に参加しよう	ナイス	市民	豊田
20	ナイス企画 ナイスパワーホーム豊田プレミアムのコンセプトを学ぼう	ナイス	市民	豊田
21	木曽川流域材の家づくりのシステムを学ぼう	ナイス	市町村	豊田
22	オークビレッジ木の時間工作にチャレンジしよう	ネバリン	父と子	根羽
23	木の工作に必要な広葉樹を育成しよう	ネバリン	山の人	全流域
24	スギダラどこでもシリーズで世の中をスギダラけにしよう	ネバリン	市民	全流域

木づかいガイドライン 研究編D (案)

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	地元の大学と地域連携協定を締結して、山村・里山の課題解決に向けて学生と一緒にチャレンジしよう	信大	市町村	根羽
2	持続可能な地域づくりに向けて里山の課題を市民から集めよう	信大	市町村	根羽
3	次世代に向けた森づくりと低コスト造林を確立しよう	信大	山の人	根羽
4	スギ人工林の植物種多様性を評価し、生物多様性保全に留意した森づくりに取り組もう	信大	森林所有者	根羽
5	伐採後に発生するスギ針葉から精油を抽出して商品化に取り組もう	信大	女子	根羽
6	農林一体化事業を支援する地理情報の可視化手法を開発しよう	信大	市町村	根羽
7	山村の聞き書き調査を行い、山村文化を発掘し継承しよう	実践者	対象者	根羽
8	雪害被害林の今後の施業指針を確立しよう	信大	市町村	根羽
9	集落周辺の森林について保残木マーク施業等景観林施業を確立しよう	ネバリン	集落	根羽
10	スギ重ね梁の実用化を実現させよう	ネバリン	工務店	根羽

木づかいガイドライン 「さあ~しよう」のフォーマット (市民編案)

区 分		内 容			
さあ~しようのテーマ					
いつ					
どこで (位置図)					
内 容					
対象者					
対応する者					
面白い点 魅力的なところ					
必要な時間					
必要な金額					
準備するもの					
イメージ (映像)					
お薦めポイントは					
参加者からのレビュー					
対象年齢	衝撃度	神秘度	リピーター率	安全性	ステージ表

木づかいガイドライン 「さあ~しよう」のフォーマット（市町村編案）

区 分		内 容		
さあ~しようのテーマ				
内 容				
対 象 者				
対象者の条件				
魅力的なところ				
必要な時間				
必要な金額				
準備するもの				
イメージ（映像）				
お薦めポイントは				
利用者からのレビュー				
対象年齢	衝撃度	やってよかった度	他県普及性	市民貢献度

木づかいガイドライン 「さあ~しよう」のフォーマット (業界編案)

区 分	内 容			
さあ~しようのテーマ				
内 容				
対 象 者				
対象者の条件				
魅力的なところ				
必要な時間				
必要な金額				
必要なメンテナンス				
イメージ (映像)				
お薦めポイントは				
利用者からのレビュー				
対象年齢	衝撃度	やってよかった度	他県普及性	市民貢献度

木づかいガイドライン 「さあ~しよう」のフォーマット（研究者編案）

区 分		内 容		
さあ~しようのテーマ				
内 容				
対 象 者				
研究の魅力的なところ				
必要な時間				
事 業 費				
イメージ（映像）				
研究のお薦めポイントは				
研究者からのレビュー				
市民貢献度	衝撃度	おすすめ度	他県普及性	発展性

～人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす

森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルへの誘い

矢作川ディズ～



森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルはとても素敵です。身近な生活空間の中に魅力的な木の製品をたくさん取り入れてみましょう。矢作川の流れを見つめ、自然の息吹に耳を傾けてみましょう。愛知・岐阜・長野の3県を流れる矢作川流域圏を対象としたこの「木づかいガイドライン」には、そんな森

林や木の魅力や、それを育む矢作川流域の自然環境に出会い、流域に暮らすひとり一人が未来にむけて互いに関わり合いながら、豊かで魅力的な地域社会を目指して活動していく（楽しむ）ヒントがたくさん書かれています。

この本を作った私たちは、森林や木の魅力や矢作川の自然環境をたくさんの方々に伝え、森林や木や矢作川の自然環境と触れ合うことで市民の輪が広がり、そのことで地域が元気になっていくことを願っている一市民です。それぞれの様々な立場や経験から、森林や木や矢作川の流れに対する愛情や想いや妄想もたっぷりこめて、矢作川流域に住む方々のために、もっと森林や木を好きになろうよ、もっと地域の木を使ってみようよ、もっと森林や木と共に生きている人達と友達になろうよ、そして地域に住むひとり一人が矢作川の自然環境の素晴らしさを共有し、皆で未来に向けて魅力的な森林・川・海・街になるようにアクションを起こし育てていこうよ、という考え方を基本にして市民の目線からこの本を作りました。



根羽村の子供が魚つかみの先生です

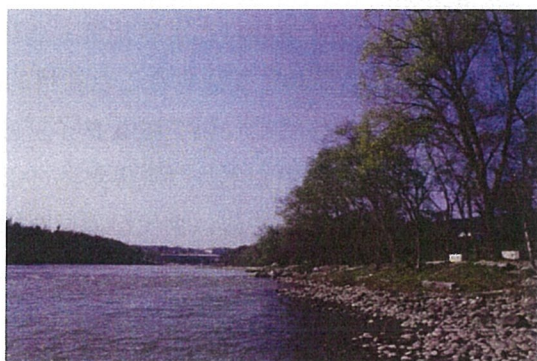
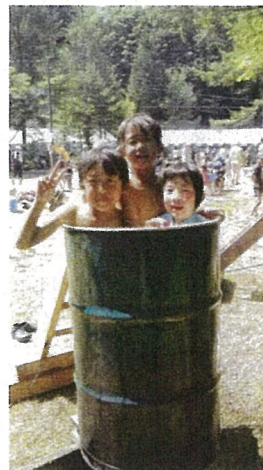


山村の若者たちが楽しい出会い企画を作りました

この本を読むときっと、あなたのライフスタイルが素敵な森林や木の製品に彩られることになるでしょう。訪ねてみたくなる森林やお店、森や木と共に生きている人と直接会って、話してみたくなることでしょう。もっと多くの同じ気持ちを持つ仲間と出会って、魅力的な地域づくりに参加してみたくなるでしょう。そんなことを通して、あなたの心が今よりもっと明るく朗らかにそして大きく広がって、森林や木とそ

れを育む矢作川の流れと共に生きていく素敵なライフスタイルに目覚められることを期待しています。

こんなライフスタイルは、きっと私たちの暮らすこの矢作川の上流から下流に暮らす人々の交流や結びつきを高めることになるでしょう。今まで以上に流域に住む人々への尊敬や感動、そして地域に対する思いやりの心、協力しあうことの大切さに気がつくことになるでしょう。こうしたライフスタイルの基本となるような、地域とそこに暮らす人々と共に生き愛する気持ちが、矢作川の流れを地域の心の絆として、私たちにとって本来あるべき、そして未来に亘って暮らしやすい持続可能な流域を作り出していくグッドスピリットであることに違いありません。



住民によって整備された矢作川古峯水辺公園

私達の故郷の源である矢作川の流れを見つめ、いつまでも美しい森林と川と海に囲まれて人生を楽しみ、愛する家族と共に幸せに暮らすことができるように、今こそ流域に暮らすひとり一人の住民の意識改革から、この豊かな自然環境を持続可能な財産として皆の手で育み、ずっと暮らしていただきたい魅力的な矢作川流域的生活空間「矢作川ディズ」を創り上げていきましょう。

地方創生で取り組みたい特色ある事業について（案）

市町村(所管部署)名： 根羽村

担当所職氏名：

事業名	山村における一次産業の担い手確保を目的とした夢と希望の山村定住化推進事業
事業の概要	<p>1 目的</p> <p>根羽村は地域資源を活用した持続可能な村づくりを目指しており、特に遊休農地を活用したとうもろこし・そば等の生産と、成熟した森林資源を利用して伐採・製材加工・販売までを行う林産業に力を入れている。こうした、山村における一次産業の技能を持った担い手の育成・定住化を図るため、移住者となる新規就業者が夢と希望を持ち、農林業によって山村に定住できるように、地元地域材による新築木造住宅「夢と希望の持てる山村ライフ定住化住宅」の建築費について支援することを目的とする。</p> <p>また、こうした山村就業希望者のための新築木造住宅については5タイプにモデル化して入居希望に配慮するものとする。建築場所は村中心部及び限界集落の2パターンに分けて建築することとし、一定の遊休農地を斡旋して若い世代が地域資源を活用して山村のライフスタイルを確立でき、さらに地元の一次産業の先生から農林業のノウハウ等の指導を受けながら、将来の地域リーダー役を担えることも目的とする。</p> <p>さらに、こうした地元地域材を活用した「山村ライフ定住化住宅」建築による「過疎化対策」の方法論モデル地域として全国に発信することにより、「夢と希望の持てる山村ライフに配慮した5タイプの山村ライフ定住化住宅」＝「山村ライフ」を商品とした販路拡大による当村の林産業の振興を目的とする。</p> <p>2 概要</p> <p>根羽村では人口の自然減少傾向が続いており、持続可能な村づくりのためには、地域の再生産に結びつく若者定住の促進を図る必要がある。また、こうした山村の定住促進にあたり、若い世代が地元で結婚し、夢と希望を持って山村ライフを送れるように、特に山村景観・山村資源の活用（薪等）を考慮した「一定水準の品質を持った住まい」（恒常的な住まい）と「一定量の遊休農地」の確保に対する配慮が求められる。</p> <p>現況では、新規の就業希望者の住まいはあっても、その大半が空き家・空き室であった時間が長かったため、カビ臭かったり、室内の感じが古臭く暗かったり、どれも相当の経年劣化が進んでおり、ただでさえ人口の少ない山村において非常に寂寥感が漂うことが多い。また、農林業等の一次産業は、一般的に所得水準が低いいため、現状ではこうした暗い感じの空き家・空き室に入居すると、さらに輪をかけて寂寥感に苛まされる。山村ライフのスタートが暗過ぎて、とても夢と希望を持って山村に移住しようなどとは思えないし、結婚できるか不安になるし、楽しい新生活が待っているなどとは想像しにくい。</p>

	<p>ところが、こうした山村の一次産業にチャレンジしようとしている志を持った新規就業者に対して、山村景観・山村資源の活用を考慮した「一定水準の品質を持った住まい」や「一定量の遊休農地」を支援してあげることができれば、少なくとも住まいに対する不安はなくなり、結婚して新生活を始めることや、新規農林業に向けたチャレンジが可能となる。なお、林業は森林組合の技能職員としての就業を想定している。</p> <p>実際、婚活支援をしている当村では、山村の未婚の男性と山村に住みたい、という女性も少なからず存在していることを認識しており、いかに農林業による夢と希望のある山村ライフを支援・確立させてあげられるかが、新規就業希望者の定住促進の鍵となっている。そのような「夢と希望の持てる山村ライフ定住化住宅」の仕様は次のとおりである。</p> <p>住まいの基本形は「一定水準の品質を持った住まい」（恒常的な住まい）である既存の根羽村森林組合オリジナル商品「小さく住まう魅力的な木の住まい」を基本形とし、これに夢と希望の山村ライフに必要な「薪ストーブ」と農林業用「アクティブハウス」（小屋）を追加する。</p> <p>1棟の建築費は15,000千円、これに「薪ストーブ」と「アクティブハウス」分2,000千円を追加して、1棟17,000円とする。</p> <p>そこで、次のような山村定住推進事業メニューを要望します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山村における新規農林業等一次産業就業者のための国産材木造住宅建築支援 ・上記対象者に対する国産材木造住宅ローンの低率融資の認可措置 <p>その他、関連して下記事項について要望します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規一次産業就業者の利用する遊休農地基盤整備事業の優先採択 ・新規一次産業就業者遊休農地・森林資源活用に向けた備品購入等に対する起業支援 ・山村における農林産物の販路・市場開拓に向けた経費支援
<p>予 算 額</p>	<p>山村における新規一次産業就業者のための国産材木造住宅建築支援</p> <p>① 「夢と希望の持てる山村ライフ定住化住宅」建築支援金 17,000千円/棟×0.7（補助率）×10棟＝119,000千円</p> <p>② 上記に伴う国産材木造住宅ローンの低率融資の認可措置 入居者負担 17,000千円－（17,000千円×0.7）＝5,100千円 ローン設定 5,100千円→6,000千円（25年償還）35歳借入→60歳完済 月返済額 6,000千円÷25年÷12ヶ月＝20千円/月（経費負担を軽くする）</p>
<p>成 果 目 標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農林業の新規就業者の増 最大で4人/家族×10家族＝40人の増 ・とうもろこし等特産品の生産による1家族あたりの農業による所得増 とうもろこし利益20万円/反、白菜利益10万円/反、ほおずき利益50万円/反 年間2反歩（とうもろこし・白菜同じ個所）の利用で80万円/家族の収入増 ・根羽村森林組合の売上増 材料費320万円/棟×10棟/年×3市町村＝9,600万円の売上増 ・根羽村森林組合への就業者増 10名

上下流と連携して流域内パートナーとして地域経済の確立によって山村が活きる思想

信州大学農学部技能訓練校 先生としての職業

チャレンジした結果、失敗している者・失敗した者でチャレンジ継続者を先生とすること
生きていることは無限に楽しく面白いだろうと思っている者を先生とすること

レッテンバッハのクラブ思想の導入 「木のある暮らし」を絆としたクラブ
スギダラ矢作川流域支部＝ネバリン特殊木工部隊スギダラ＝里山サロン＝木のあ
る暮らしギャラリー＝田舎の先生 365 日技能講習＝県境・行政の枠を超えた人の
輪＝それぞれの立場が主役になった地域主体の木の祭り＝地域や流域の元気

誇り ＝森づくり技能・搬出技能・製品づくり技能・木工作技能・経営技能
田舎の品格

自信 ＝根羽村にしかないものを求めて人がくること
根羽村で品質の高いものをつくれること

主役感＝誇りと自信を持った自分が「森の民」としてやるべきことをやっている実感

流域で活きる技能

アイデアトレーニング

地理情報活用技能



ウッドスタート宣言市町村

「ウッドスタート宣言」

日本各地の市町村が賛同！地域色を活かしたウッドスタート宣言。

全国の自治体で、以下の6項目のうち、2項目以上を約束することによって、ウッドスタート宣言を公式発表し、調印式を行うことができます。

例えば地元の木工職人が地元の木材で作った木のおもちゃを新生児に送る「ウッドスタート」はその代表例です。その他各地の木材や文化を活かし、こうした取り組みが森を守る循環型のシステムに発展することを願いながら、全国のウッドスタート宣言市町村が、地域ならではの木育推進プログラムを展開中です。



「誕生祝い品」..

地産地消の木のおもちゃを新生児にプレゼント

地元の木工職人が地域材で作った木のおもちゃを新生児に贈る取り組み。各地の木材や文化を活かしたオリジナル玩具づくりが着々と進んでいます。

[◆ 詳細はこちら](#)



「木育インストラクター」..

地域で木育推進のリーダーとなる人の養成。

私たちは、モノ(木のおもちゃ)と場所(木育ひろば)に加えて、人(木育インストラクター)の養成にも力を入れています。この「人」が、その地域で、木と触れ合う場所を活かし、学びを提供し、木とともに生きる方法を提案していきます。

[◆ 詳細はこちら](#)



「子育てサロン」..

地域材を活用した木質感あふれるサロン

私たちは、「木」を真ん中にした子育て活動を推進しています。そのシンボルとなるのが、「赤ちゃん木育ひろば」。日本の木力と魅力と、職人やアーティストの技と美学が結集した子育てサロンです。

[◆ 詳細はこちら](#)



「移動型おもちゃ美術館-木育キャラバン-」..

木の良さ・楽しさを体験できる木育キャラバンの実施

移動型おもちゃ美術館「木育キャラバン」が、全国各地に素晴らしいおもちゃとの出会いの場を創ります。誰もが木のおもちゃで遊ぶことができる空間を生み出し、国内外のおもちゃ作家による木製玩具を楽しんでいただける。それが「木育キャラバン」です。

[◆ 詳細はこちら](#)



「木育円卓会議」..

地域の木育推進をみんなで考え語り合う円卓会議

[◆ 詳細はこちら](#) 森林・林業・林産業に従事する人たちと、子育て支援関係者、自治体の担当者を一同に介し、地域の今と未来を「木育」という切り口で議論します。



私たちの活動をみる

ウッドスタートとは何かを見る
 ● 詳細はこちら [遊びと文化を大切に、地域の森林資源をふんだんに取り入れた「おもちゃ美術館」の姉妹館。これを地域の力で作り上げ、地域の魅力・遊びの充実を目指していきます。](#)



木育キャラバン



木育インストラクター



木育円卓会議



企業との連携



ウッドスタート宣言市町村

1,017
 いいね!
 シェア
 木育ラボ

[facebookページへ](#)

[ページトップへ](#)

イベント情報
 ■ イベント一覧

木育って何?

ウッドスタート
 ■ ウッドスタートとは
 ■ ウッドスタート宣言市町村
 ■ ウッドスタート宣言企業

活動紹介
 ■ 木育キャラバン
 ■ 木育インストラクター
 ■ 木育円卓会議
 ■ 企業との連携

私たちに
 ■ お問い合わせ





ウッドスタート宣言企業

W 「ウッドスタート宣言」

日本各地の企業が賛同！企業色を活かしたウッドスタート宣言。

私たちが目指しているのは「100の企業」と「100の自治体」を結びつけること。

環境保全による社会貢献を目指す「企業」と地域材の利活用を積極的に推進している「自治体」とが、手と手を取り合うことで、企業の社員も元気になり、林業・林産業も活性化する。そして、日本の森林を元気にする大きなエネルギーにもなるのです。

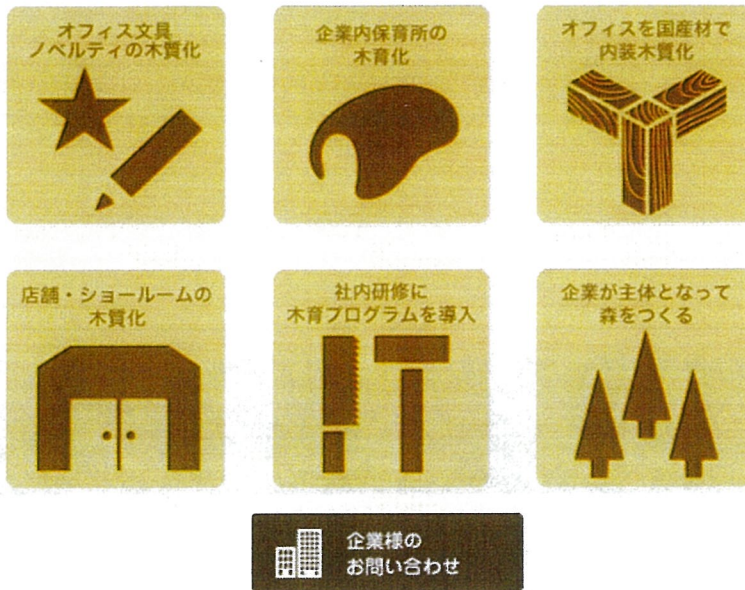


企業でスタート！木育化！

9つのプログラムのうち2つ以上を実施すると、「ウッドスタート宣言」ができます。あなたの企業も、「ウッドスタート宣言」で、環境保全による社会貢献活動をしてみませんか？



私たちの活動をみる



以上の項目にあてはまらなくても、検討判断を行い、認定項目とします。

その他、以上の項目にあてはまらなくても、積極的な利用が認められている法人に対しては、その都度検討判断を行い、認定項目としてカウントします。木質バイオマスによる発電などもその一つです。



木育キャラバン



木育インストラクター



木育円卓会議



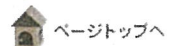
企業との連携



ウッドスタート宣言市町村



facebookページへ



ページトップへ

イベント情報
■ イベント一覧

木育って何？

ウッドスタート
■ ウッドスタートとは
■ ウッドスタート宣言市町村
■ ウッドスタート宣言企業

活動紹介
■ 木育キャラバン
■ 木育インストラクター
■ 木育円卓会議
■ 企業との連携

私たちについて
■ お問い合わせ

copyright 特定非営利活動法人 日本グッド・トイ委員会 All rights reserved.



流域をめぐる、若者達の取り組み紹介

愛知・川の会発の若者達の取り組みをご紹介するイベントです！
彼らが作った野菜を食材にしたイタリア料理を頂きながら、
若い世代の新しい取り組みを聞きに来ませんか？



プログラム(予定)

※内容は変更になる場合がございます。

中小河川を救う！ 小さな自然再生の紹介

田中五月

[愛知・川の会、ClearWaterProject]



申原農林について (森の魅力について)

三宅大輔

[申原農林 代表]



愛知発小さな自然再生 事例 五条川

宮田賢輔

[トンボと水辺環境研究所 代表]



会場からの質問、 トークセッション

会場のみなさま

みなさんからの自由な意見をお待ちしています！



開催概要

参加費: 大人1名 ¥1,800 (軽食付き)
★別途ドリンクはワンコイン500円!

人数: 先着30名

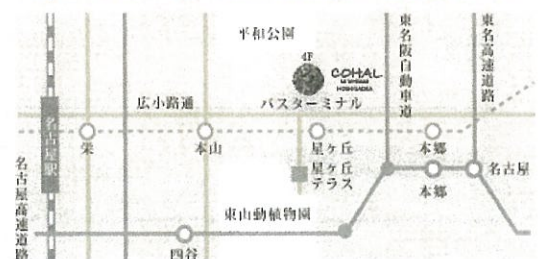
問合せ先: support.jp@clearwaterproject.info

お申し込み: 上記までメールまたは、
愛知・川の会事務局までFAX送信ください
(FAXについての詳細は裏面)

日程: 2015年2月1日(日)

時間: 14:00~17:00 *13:45~ 受付

場所: 名古屋市千種区星が丘山手911番地
COHAL la terrazza HOSHIGAOKA
<http://www.cohal-web.com/access.html>



流域をめぐる、若者達の新しい取り組みをご紹介します。

主催 ClearWaterProject／川サポ
共催 愛知・川の会
協力 COHAL

まず、愛知・川の会からは昨年入会した田中が中小河川を救う「小さな自然再生」の取り組みをご紹介します。

小さな自然再生は、市民が日曜大工的に河川の一部をいじり、生態系の回復を試みるとても楽しい取り組みです。

過去ゲリラ的に全国で行われていましたが、九州大学 島谷研の林先生、元自然共生研究センターの原田氏らが中心となり事例集をまとめています。同じく事例集編集委員だった田中が考え方や事例などを紹介していきます。



次に、小さな自然再生で愛知県の先進事例として取り上げられている五条川の事例を宮田氏より紹介して頂きます。

五条川では宮田氏が中心となり、H14年より変化がなく単調な川に岸辺を造成する活動を行っています。

管轄組織との調整や、実施する際の下準備、周りの小学生や企業を巻き込む方法など、一つの事例に踏み込んで話してもらいます。

最後に山の取り組みを三宅氏より紹介して頂きます。

串原農林では、全国的に見ても手入れがされず荒れていくばかりの私有林の管理を積極的に行い、豊かな森づくりを行っています。

他の森林組合では出来ない私有林の管理がなぜ串原農林では出来るのか、リスクのある林業への新規民間参入をなぜ決意したのか？中山太鼓など、串原の文化も交えて話してもらいます。



FAX申し込み書 ※ご記入後、本用紙をFAXにて送付ください。

送付先: 愛知・川の会 事務局

FAX番号: 050-5893-9707

2/1(日) ClearWaterProject主催 愛知・川の会共催 特別イベント「流域カフェ」に参加します。

氏名

連絡先電話番号